

石綿健康被害救済制度被認定者の 介護等の実態調査結果

調査の概要

○ 調査期間

平成29年7月中旬～平成29年10月下旬

○ 調査対象者

平成29年7月14日時点で療養中の被認定者(1,006名)及び調査期間中に未支給の医療費等の支給決定がされた、お亡くなりになった被認定者(100名)

○ 調査方法

自記式調査票の郵送による調査

○ 回収率

	送付数	回答数	回収率
療養中の被認定者	1,006名	877名	87.2%
お亡くなりになった被認定者	100名	48名	48.0%

○ 回答した調査対象者の内訳

本調査結果において、割合は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

療養中の被認定者

年齢(平成29年7月14日時点)・性別・指定疾病は石綿健康被害手帳番号等と機構のシステムで保有する情報を連結させたもの。石綿健康被害手帳番号や氏名の記載がなく、連結ができなかった者は不明とした。

	男性		女性		不明		合計	
40歳未満	4	0.6%	11	5.1%	-	-	15	1.7%
40～49歳	17	2.6%	18	8.4%	-	-	35	4.0%
50～59歳	45	6.9%	22	10.3%	-	-	67	7.6%
60～69歳	196	30.0%	59	27.6%	-	-	255	29.1%
70～79歳	289	44.3%	74	34.6%	-	-	363	41.4%
80歳以上	102	15.6%	30	14.0%	-	-	132	15.1%
65歳以上(再掲)	531	81.3%	140	65.4%	-	-	671	76.5%
不明	-	-	-	-	10	100.0%	10	1.1%
合計	653	100.0%	214	100.0%	10	100.0%	877	100.0%

	人数(人)	割合	平均年齢
中皮腫	604	68.9%	68.1歳
肺がん	233	26.6%	73.7歳
石綿肺	2	0.2%	77.0歳
びまん性胸膜肥厚	38	4.3%	73.6歳
不明	0	0.0%	-
合計	877	100.0%	69.9歳

※不明10名の疾病は、アンケートで回答のあった疾病で集計。

※平均年齢：不明の者を除いた平均年齢

お亡くなりになった被認定者

	男性		女性		不明		合計	
40歳未満	0	0.0%	0	0.0%	-	-	0	0.0%
40～49歳	0	0.0%	0	0.0%	-	-	0	0.0%
50～59歳	0	0.0%	3	23.1%	-	-	3	6.3%
60～69歳	5	14.7%	2	15.4%	-	-	7	14.6%
70～79歳	16	47.1%	6	46.2%	-	-	22	45.8%
80歳以上	13	38.2%	2	15.4%	-	-	15	31.3%
不明	-	-	-	-	1	100.0%	1	2.1%
合計	34	100.0%	13	100.0%	1	0.0%	48	100.0%

	人数(人)	割合	平均年齢
中皮腫	46	95.8%	74.3歳
肺がん	0	0.0%	-
石綿肺	1	2.1%	85.0歳
びまん性胸膜肥厚	0	0.0%	-
不明	1	2.1%	-
合計	48	100.0%	74.5歳

※ 年齢：お亡くなりになった年齢

石綿健康被害救済制度被認定者の 介護等の実態調査結果

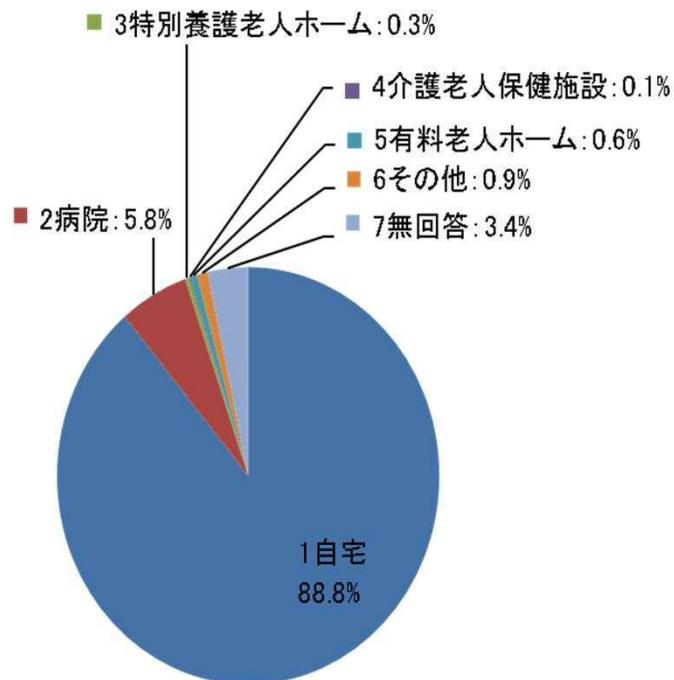
療養中の被認定者

問1 あなたが現在、療養生活をしている場所はどこですか（単数回答）

「1自宅」(88.8%)の割合が最も高く、次いで「2病院」(5.8%)となっている。

回答対象者：877名

回答項目	回答数(名)	割合
1自宅	779	88.8%
2病院	51	5.8%
3特別養護老人ホーム	3	0.3%
4介護老人保健施設	1	0.1%
5有料老人ホーム	5	0.6%
6その他(養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護等)	8	0.9%
7無回答	30	3.4%
合計	877	100.0%

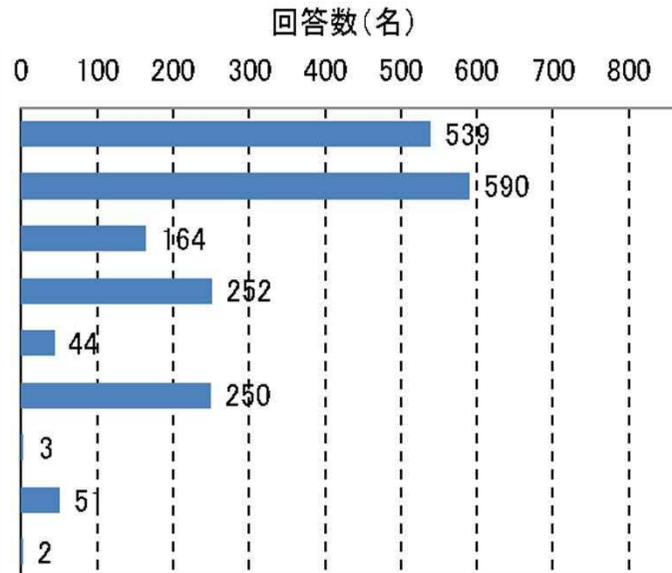


問2 これまでに、あなたが認定疾病について受けた治療はどれですか（複数回答）

「2化学療法(抗がん剤)」(67.3%)の割合が最も高く、次いで「1手術」(61.5%)となっている。

回答対象者：877名

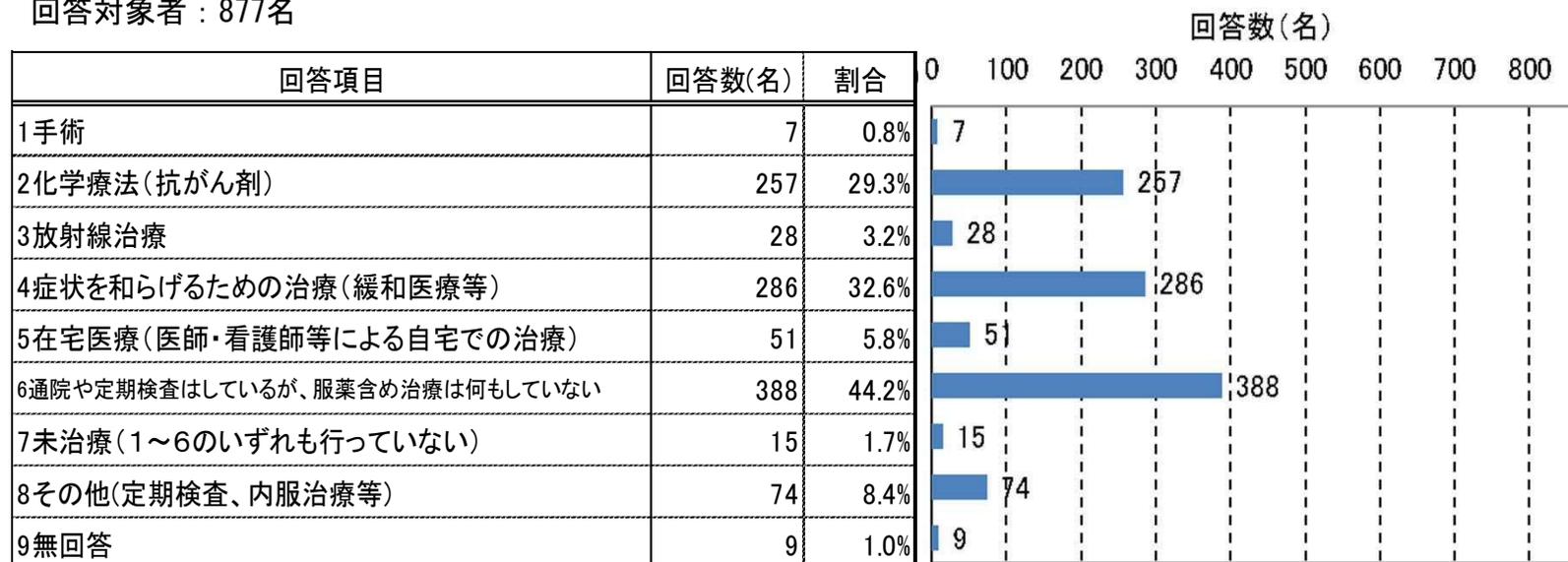
回答項目	回答数(名)	割合
1手術	539	61.5%
2化学療法(抗がん剤)	590	67.3%
3放射線治療	164	18.7%
4症状を和らげるための治療(緩和医療等)	252	28.7%
5在宅医療(医師・看護師等による自宅での治療)	44	5.0%
6通院や定期検査はしているが、服薬含め治療は何もしていない	250	28.5%
7未治療(1~6のいずれも行っていない)	3	0.3%
8その他(定期検査、内服治療等)	51	5.8%
9無回答	2	0.2%



問3 現在、あなたが認定疾病について受けている治療は何ですか（複数回答）

「6通院や定期検査はしているが、服薬含め治療は何もしていない」(44.2%)の割合が高く、次いで「4症状を和らげるための治療(緩和医療等)」(32.6%)となっている。

回答対象者：877名

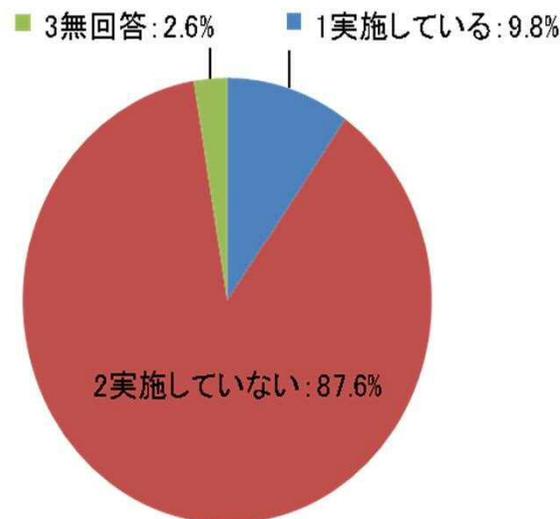


問4 現在、認定疾病の治療のため、日常生活において在宅酸素療法を実施していますか（単数回答）

「2実施していない」(87.6%)の割合が高く、実施している場合の酸素流量は、平均値で安静時1.88リットル/分、運動時2.07リットル/分、睡眠時1.54リットル/分となっている。

回答対象者：877名

回答項目	回答数(名)	割合
1実施している	86	9.8%
2実施していない	768	87.6%
3無回答	23	2.6%
合計	877	100.0%



○ 実施している場合の酸素流量の設定

酸素流量	平均値	中央値	回答数(名)
安静時(リットル/分)	1.88	1.75	82
運動時(リットル/分)	2.07	2.00	82
睡眠時(リットル/分)	1.54	1.50	82

※ 実施していると回答した者のうち、安静時・運動時・睡眠時の全てに酸素流量の記載がない者及びNPPVを使用している者を除いた値。

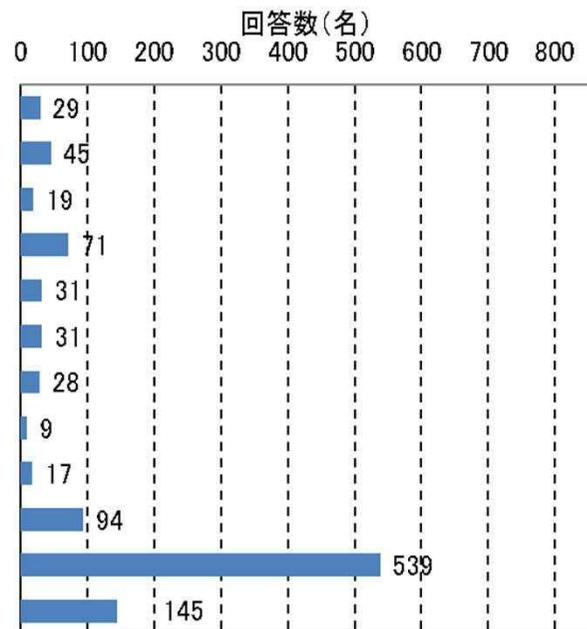
実施していると回答した者のうち、安静時・運動時・睡眠時のいずれか一つでも回答があり、その他の項目に空白があった場合は、空白の酸素流量を「0」として計算。

問5 現在、あなたが自己負担で利用している衛生材料はありますか(複数回答)

「11なし」(61.5%)の割合が最も高く、費用負担額については、1か月当たりの項目別平均費用額は、「1ガーゼ」が最も高く9,106円、1名あたりの1か月当たりの平均費用総額は7,957円となっている。

回答対象者：877名

回答項目	回答数(名)	割合
1ガーゼ	29	3.3%
2消毒液	45	5.1%
3脱脂綿	19	2.2%
4おむつ	71	8.1%
5手袋	31	3.5%
6綿棒	31	3.5%
7ばんそうこう	28	3.2%
8包帯	9	1.0%
9サージカルテープ	17	1.9%
10その他(マスク、尿取りパット等)	94	10.7%
11なし	539	61.5%
12無回答	145	16.5%



○ 費用負担について

	一か月あたりの費用(平均値)	一か月あたりの費用(中央値)	回答数(名)
1ガーゼ	9,106円	1,150円	22
2消毒液	1,040円	1,000円	32
3脱脂綿	658円	500円	12
4おむつ	4,918円	3,250円	62
5手袋	993円	1,000円	21
6綿棒	285円	200円	20
7ばんそうこう	582円	500円	17
8包帯	750円	600円	6
9サージカルテープ	1,438円	1,150円	14
10その他	8,960円	1,200円	76
1名あたりの合計	7,957円	2,000円	166

※ 「自己負担なしと回答した者」及び「無回答の者」を除き、金額の回答のあった者の値。

※ 1名あたりの合計は総額のみ記載していた者を含む。

問6 通院に係る交通費等について

医療機関の所在地別の年平均の交通費については、有効回答者の居住地と同一都道府県内が55,634円、同一都道府県外が74,217円、同一都道府県内・外にまたがる場合が388,059円となっており、合計では73,965円となっている。

回答対象者	877名
有効回答者	615名
回答不十分・無記名による無効	262名

○ 通院場所別の頻度、交通費、通院目的について

	通院人数		通院頻度(回/年)		交通費(円/年)		通院目的(複数回答)			
			平均値	中央値	平均値	中央値	手術前後の通院	化学療法	放射線治療	その他
都道府県内	515名	83.7%	20.1	12	55,634	14,400	222名	181名	31名	268名
都道府県外	70名	11.4%	18.7	13	74,217	48,000	41名	34名	4名	32名
都道府県内外	30名	4.9%	46.2	21	388,059	81,000	28名	18名	5名	29名
合計	615名	100.0%	21.2	12	73,965	20,000	291名	233名	40名	329名

<有効回答者>

下記、①～④の全てに該当する者

①石綿健康被害医療手帳番号等個人を特定できる情報の記載がある

②通院病院の所在地(都道府県)がわかる

③②の病院において、通院頻度の記載がある

④②の病院において、一回の通院にかかる交通費の記載がある

○ 通院場所別の医療機関数について

	1機関		2機関		3機関		4機関		5機関		全体	
都道府県内	435名	84.5%	64名	12.4%	10名	1.9%	6名	1.2%	0名	0.0%	515名	100.0%
都道府県外	60名	85.7%	8名	11.4%	2名	2.9%	0名	0.0%	0名	0.0%	70名	100.0%
都道府県内外	0名	0.0%	24名	80.0%	5名	16.7%	1名	3.3%	0名	0.0%	30名	100.0%
合計	495名	80.5%	96名	15.6%	17名	2.8%	7名	1.1%	0名	0.0%	615名	100.0%

○ 通院手段別の頻度、交通費について

※ 通院が複数手段の方もおられるため複数回答(有効回答数615名)

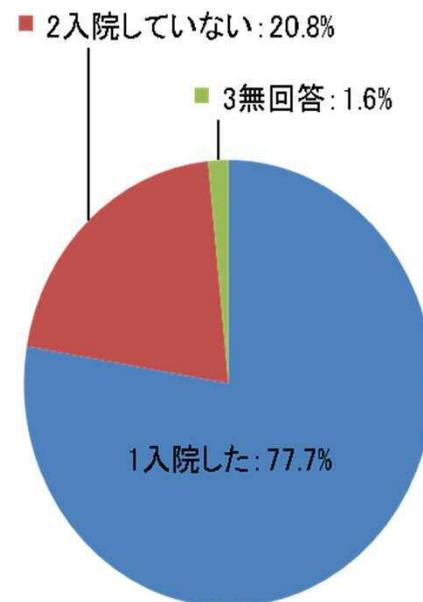
	通院人数		通院頻度(回/年)		交通費(円/年)	
			平均値	中央値	平均値	中央値
徒歩	31名	4.8%	18.8	12	3,097	0
自家用車	229名	35.2%	19.7	12	46,222	10,800
電車・バス	176名	27.0%	17.2	12	38,162	12,000
タクシー	191名	29.3%	23.1	12	123,881	48,000
その他	24名	3.7%	19.2	9	181,923	83,200

問7 療養期間中に、あなたは認定疾病の治療のために医療機関に入院しましたか（単数回答）

「1入院した」(77.7%)の割合が高く、入院した場合の平均入院回数は5.19回、1回当たりの入院平均日数は21.3日となっている。

回答対象者：877名

回答項目	回答数(名)	割合
1入院した	681	77.7%
2入院していない	182	20.8%
3無回答	14	1.6%
合計	877	100.0%



○ 入院した場合の今までの入院回数と1回当たりの平均日数

	平均値	中央値	回答数(名)
入院回数	5.19回	4回	659
1回当たりの入院日数	21.3日	14日	652

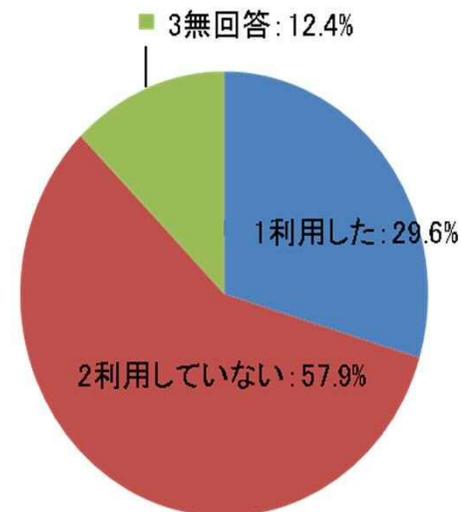
※ 回答のあった者の平均値、中央値

問8 入院に当たり、あなたは差額ベッド(個室等)を利用しましたか (単数回答)

「2利用していない」(57.9%)の割合が高く、利用した場合の1日当たりの平均費用は9,195円となっている。

回答対象者：877名

回答項目	回答数(名)	割合
1利用した	260	29.6%
2利用していない	508	57.9%
3無回答	109	12.4%
合計	877	100.0%



○ 利用した場合の1日当たりにかかるおよその費用

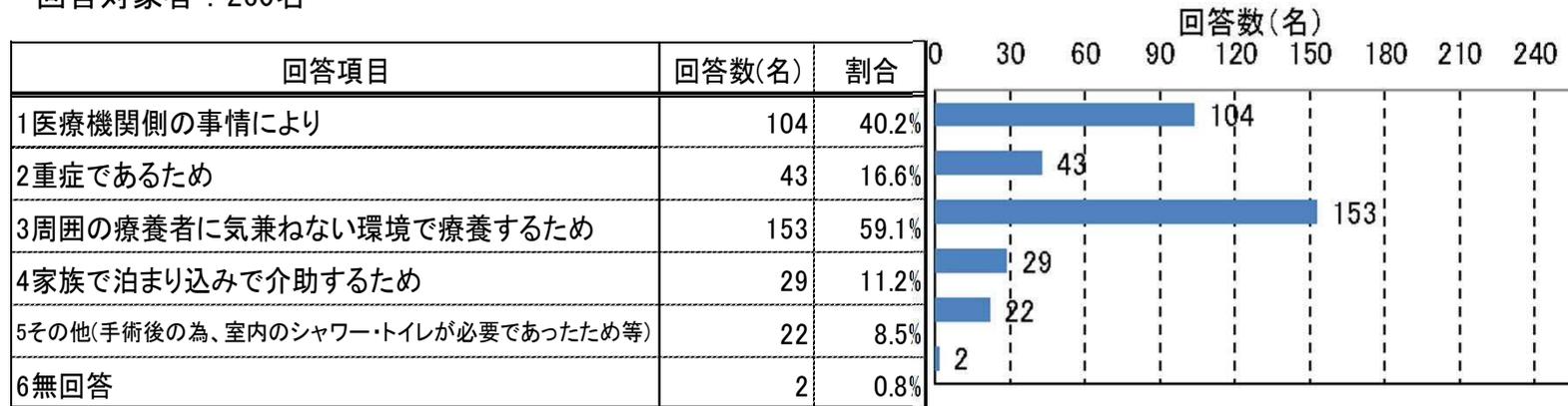
	平均値	中央値	回答数(名)
1日当たりの費用	9,195円	7,500円	237

※ 回答のあった者の平均値、中央値

問9 差額ベッドを利用した理由は何ですか（複数回答）

「3周囲の療養者に気兼ねない環境で療養するため」(59.1%)の割合が高く、次いで「1医療機関側の事情により」(40.2%)となっている。

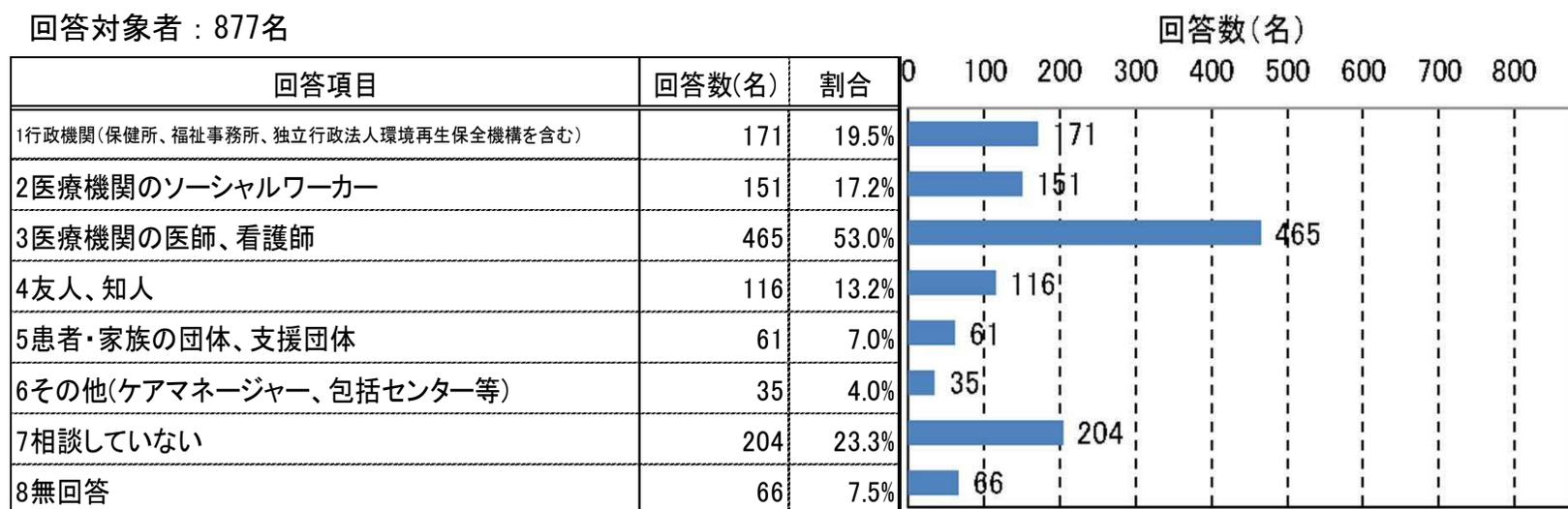
回答対象者：260名



問10 療養期間中に病気や療養生活等について、相談した窓口等がありますか（複数回答）

「3医療機関の医師、看護師」（53.0%）の割合が最も高く、次いで「7相談していない」（23.3%）となっている。

回答対象者：877名

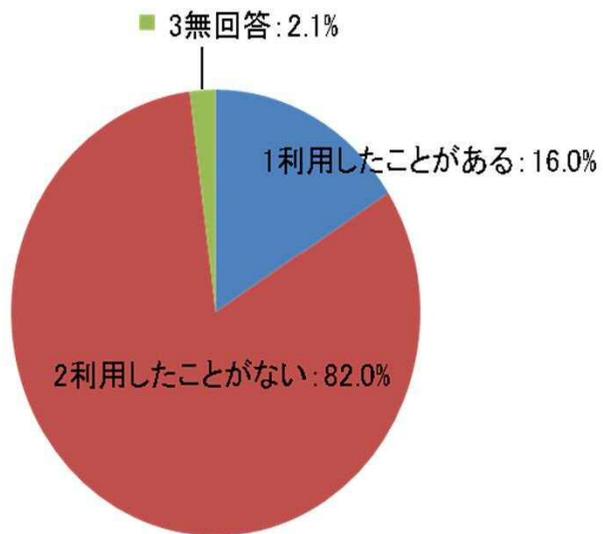


問11-1 療養期間中に全国の「がん診療連携拠点病院」や「地域がん診療病院」に設置されているがん相談支援センターを利用したことがありますか（単数回答）

「2利用したことがない」(82.0%)の割合が高くなっている。

回答対象者：877名

回答項目	回答数(名)	割合
1利用したことがある	140	16.0%
2利用したことがない	719	82.0%
3無回答	18	2.1%
合計	877	100.0%

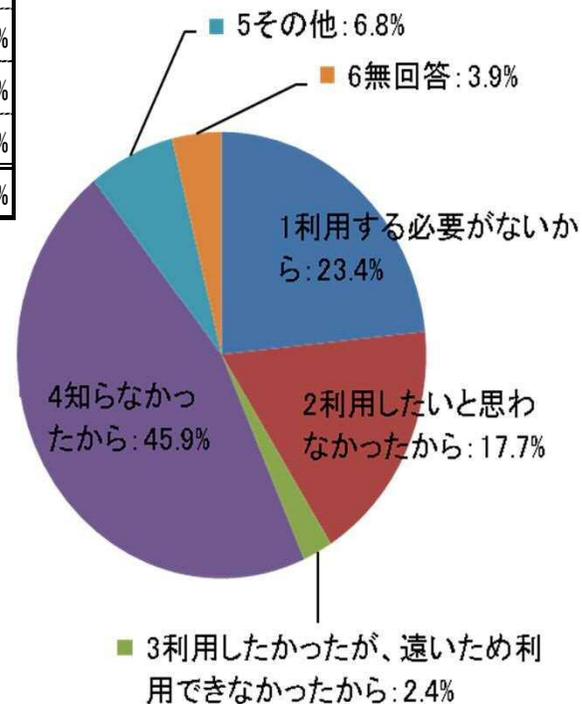


問11-2 がん相談支援センターを利用したことがない理由は何ですか（単数回答）

「4知らなかったから」(45.9%)の割合が最も高く、次いで「1利用する必要がないから」(23.4%)となっている。

回答対象者：719名

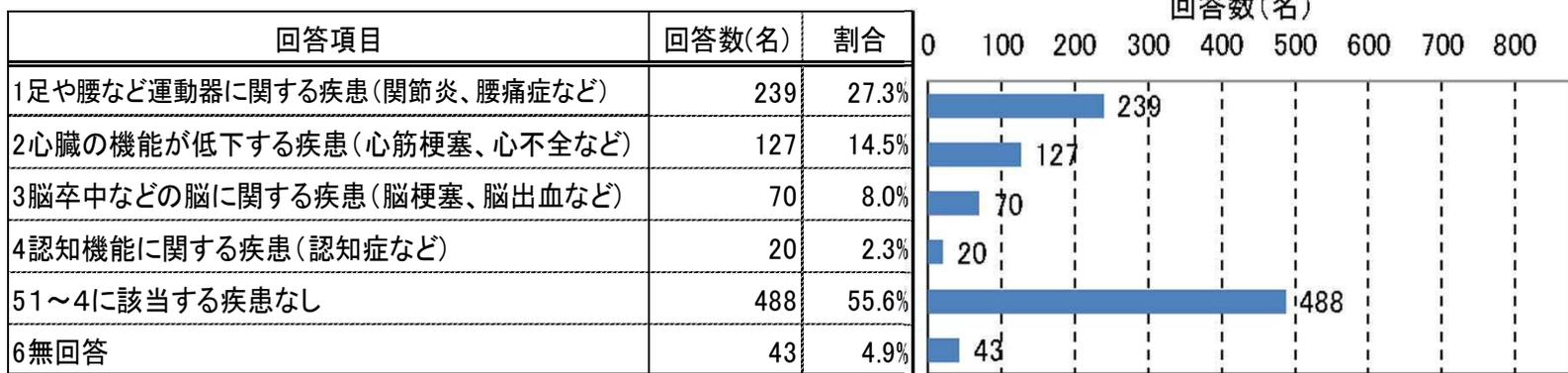
回答項目	回答数(名)	割合
1利用する必要がないから	168	23.4%
2利用したいと思わなかったから	127	17.7%
3利用したかったが、遠いため利用できなかったから	17	2.4%
4知らなかったから	330	45.9%
5その他(医師に相談していたから、利用方法がわからないから等)	49	6.8%
6無回答	28	3.9%
合計	719	100.0%



問12 あなたは身体活動に影響しうる次の4つの疾患で医療機関を受診していますか（複数回答）

「5 1～4に該当する疾患なし」(55.6%)の割合が最も高く、次いで「1 足や腰など運動器に関する疾患(関節炎、腰痛症など)」(27.3%)となっている。

回答対象者：877名

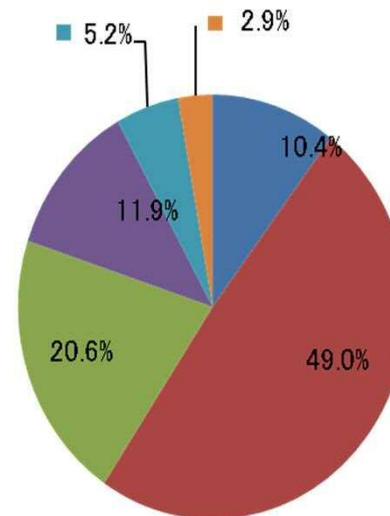


問13 あなたは現在、認定疾病の障害によりどの程度日常生活活動が制限されていますか（単数回答）

「2軽度の症状があり、肉体労働は制限を受けるが、歩行、軽労働や座業はできる状況」（49.0%）の割合が最も高く、次いで「3歩行や身のまわりのことはできるが、時に少し介助が必要なこともあり、軽労働はできないが、日中の50%以上はベッド周辺を離れて生活できる状況」（20.6%）となっている。

回答対象者：877名

回答項目	回答数(名)	割合
■ 1無症状で社会活動ができ、制限を受けることなく、発病前と同等に活動できる状況	91	10.4%
■ 2軽度の症状があり、肉体労働は制限を受けるが、歩行、軽労働や座業はできる状況	430	49.0%
■ 3歩行や身のまわりのことはできるが、時に少し介助が必要なこともあり、軽労働はできないが、日中の50%以上はベッド周辺を離れて生活できる状況	181	20.6%
■ 4身のまわりのある程度のことではできるが、しばしば介助が必要で、日中の50%以上はベッド周辺で生活しており、自力で屋外への外出等がほぼ不可能な状況	104	11.9%
■ 5身のまわりのこともできず、常に介助を必要とし、終日就床を強いられ、活動の範囲がおおむねベッド周辺に限られる状況	46	5.2%
■ 6無回答	25	2.9%
合計	877	100.0%

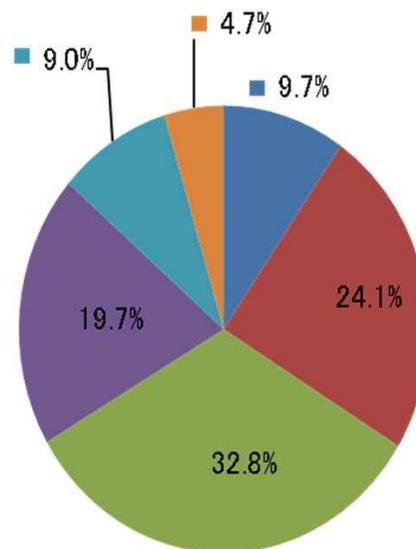


問14 現在のあなたの運動時の息切れの程度について（単数回答）

「3息切れがあるので、同年代の人より平坦な道を歩くのが遅い、あるいは平坦な道を自分のペースで歩いている時、息切れのために立ち止まることがある」(32.8%)の割合が最も高く、次いで「2平坦な道を早足で歩く、あるいは緩やかな上り坂を歩くとときだけ息切れがある」(24.1%)となっている。

回答対象者：877名

回答項目	回答数(名)	割合
■ 1激しい運動をした時だけ息切れがある	85	9.7%
■ 2平坦な道を早足で歩く、あるいは緩やかな上り坂を歩くとときだけ息切れがある	211	24.1%
■ 3息切れがあるので、同年代の人より平坦な道を歩くのが遅い、あるいは平坦な道を自分のペースで歩いている時、息切れのために立ち止まる	288	32.8%
■ 4平坦な道を約100m、あるいは数分歩くと息切れのために立ち止まる	173	19.7%
■ 5息切れがひどく家から出られない、あるいは衣服の着替えをする時にも息切れがある	79	9.0%
■ 6無回答	41	4.7%
合計	877	100.0%



問15 療養中の活動時の詳細な状況について(PADL表)

全体の平均得点は、172点満点中150.7点で、得点比率は87.6%となっている。

回答対象者	100%有効回答数	割合
877名	657名	74.9%

<100%有効回答数>

「食事、排せつ、入浴、洗髪、整容、更衣、屋内歩行、階段、屋外歩行」の各項目において、「達成、距離・場所、頻度、速度、息切れ」の各項目(点数部分)が全て回答されている者の数

○ 各カテゴリーの平均得点の状況について (100%有効回答者) (単位:点)

	達成	距離・場所	頻度	速度	息切れ	合計/満点	得点比率
食事	3.8	3.5	3.9	3.2	3.4	17.9/20	89.5%
排せつ	3.9	3.9	3.9	3.5	3.5	18.6/20	93.2%
入浴	3.8	3.6	3.6	3.2	3.3	17.5/20	87.6%
洗髪	3.8	3.9	3.9	3.3	3.4	18.3/20	91.7%
整容	3.7	3.8	3.8	3.4	3.5	18.3/20	91.5%
更衣	3.7	-	3.7	3.3	3.5	14.2/16	88.9%
屋内歩行	3.8	3.9	3.7	3.2	3.4	18.0/20	90.0%
階段	3.6	3.1	3.2	2.7	2.7	15.4/20	77.0%
屋外歩行	3.7	-	3.3	2.6	2.8	12.4/16	77.5%
合計/満点	33.9/36	25.7/28	33.0/36	28.4/36	29.6/36	150.7/172	-
得点比率	94.2%	91.9%	91.8%	78.9%	82.3%	-	87.6%

※ 得点：有効回答657名の平均得点

(参考)回答があった者の集計 (単位:点)

	平均得点/満点	得点比率	集計人数
食事	17.5/20	87.7%	780名
排せつ	18.5/20	92.4%	778名
入浴	17.2/20	85.9%	789名
洗髪	18.1/20	90.5%	796名
整容	17.8/20	89.2%	788名
更衣	13.8/16	86.4%	818名
屋内歩行	17.4/20	87.2%	800名
階段	14.9/20	74.4%	780名
屋外歩行	12.0/16	75.2%	785名
合計	147.3/172	85.7%	834名

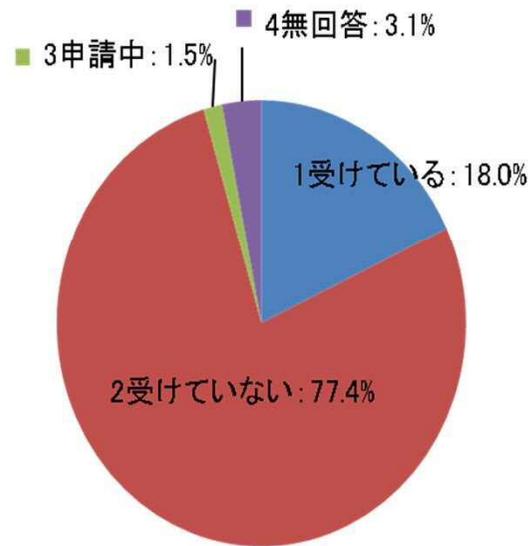
※ 合計得点は各カテゴリーの平均点の合計

問16-1 あなたは介護保険制度の要支援または要介護の認定を受けていますか（単数回答）

「2を受けていない」(77.4%)の割合が高くなっている。

回答対象者：877名

回答項目	回答数(名)	割合
1 受けている	158	18.0%
2 を受けていない	679	77.4%
3 申請中	13	1.5%
4 無回答	27	3.1%
合計	877	100.0%

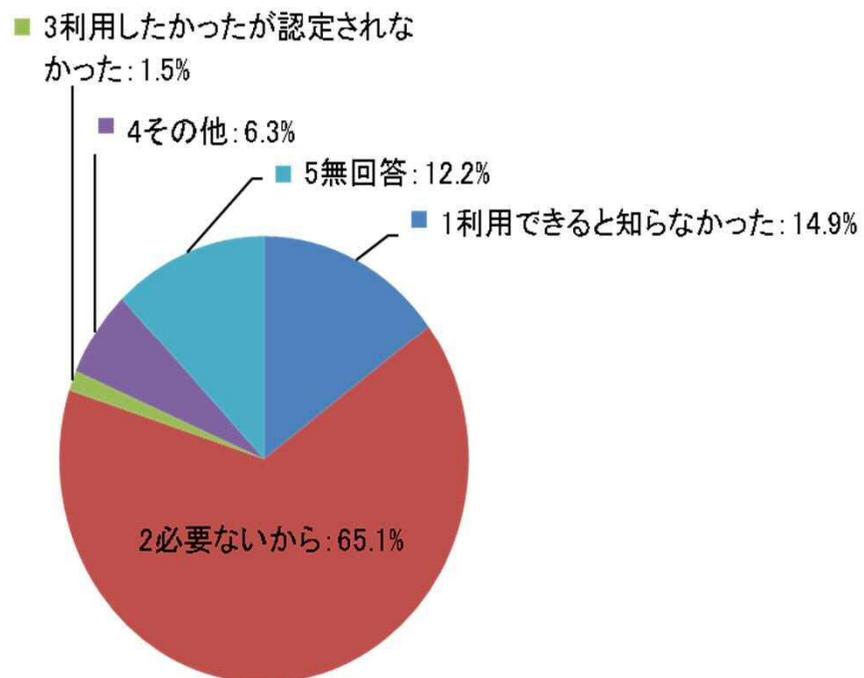


問16-2 介護保険制度を受けていない理由について（単数回答）

「2必要ないから」(65.1%)の割合が最も高く、次いで「1利用できると知らなかった」(14.9%)となっている。

回答対象者：679名

回答項目	回答数(名)	割合
1利用できると知らなかった	101	14.9%
2必要ないから	442	65.1%
3利用したかったが認定されなかった	10	1.5%
4その他(申請中である、利用したいが認定されないと感じるから等)	43	6.3%
5無回答	83	12.2%
合計	679	100.0%

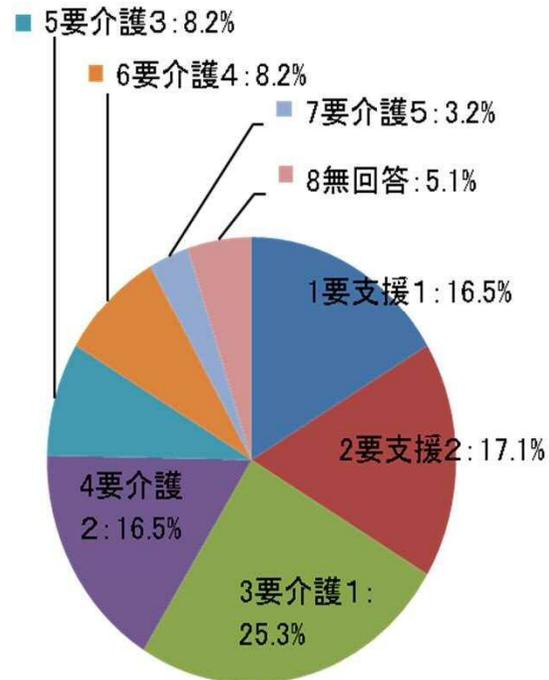


問17 あなたの現在の要支援度・要介護度について（単数回答）

「3要介護1」（25.3%）の割合が最も高く、次いで「2要支援2」（17.1%）となっている。

回答対象者：158名

回答項目	回答数(名)	割合
1要支援1	26	16.5%
2要支援2	27	17.1%
3要介護1	40	25.3%
4要介護2	26	16.5%
5要介護3	13	8.2%
6要介護4	13	8.2%
7要介護5	5	3.2%
8無回答	8	5.1%
合計	158	100.0%



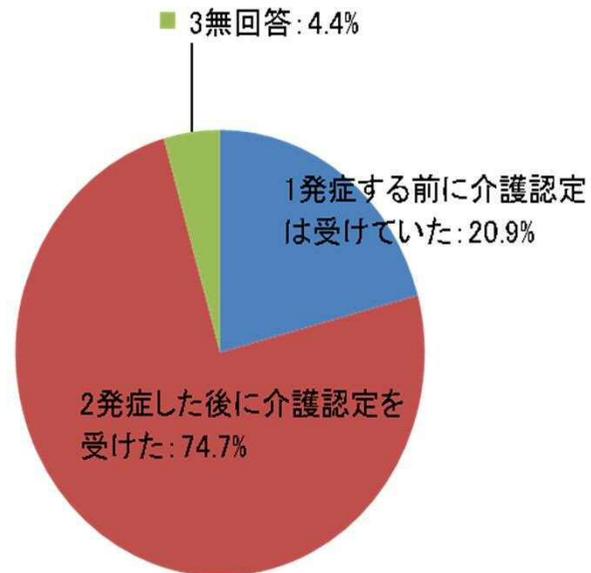
問18-1 認定疾病を発症する前から介護認定を受けていましたか（単数回答）

「2発症した後に介護認定を受けた」（74.7%）の割合が高くなっている。

認定疾病発症前からの介護認定

（回答対象者：158名）

回答項目	回答数(名)	割合
1発症する前に介護認定を受けていた	33	20.9%
2発症した後に介護認定を受けた	118	74.7%
3無回答	7	4.4%
合計	158	100.0%

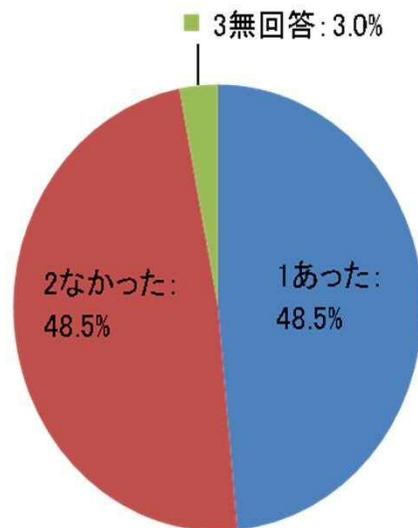


問18-2 認定疾病を発症したことで要支援度・要介護度に変更はありましたか（単数回答）

「1あった」と「2なかった」が48.5%で同じ割合となっている。

認定疾病を発症することによる要支援度・要介護度の変更（回答対象者：33名）

回答項目	回答数(名)	割合
1あった	16	48.5%
2なかった	16	48.5%
3無回答	1	3.0%
合計	33	100.0%

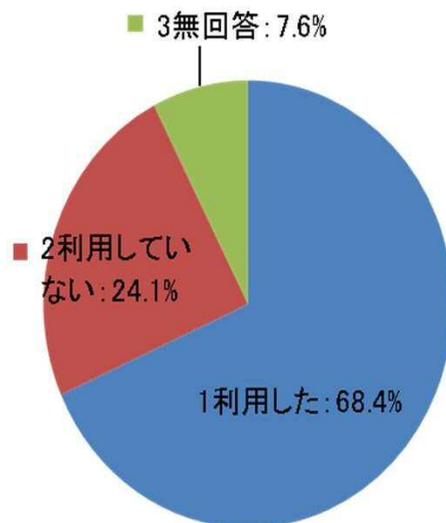


問19 あなたは認定疾病の療養期間中に介護保険制度によるサービスを利用しましたか（単数回答）

「1利用した」(68.4%)の割合が高くなっている。

回答対象者：158名

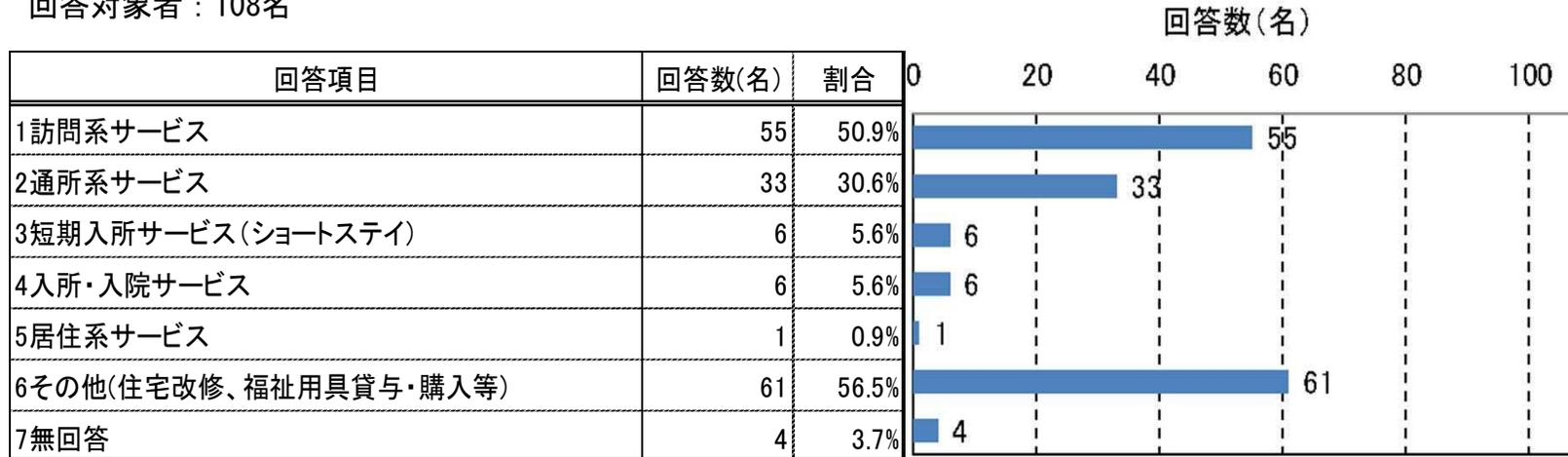
回答項目	回答数(名)	割合
1利用した	108	68.4%
2利用していない	38	24.1%
3無回答	12	7.6%
合計	158	100.0%



問20 あなたがここ1ヶ月の間に利用したすべての介護保険制度によるサービスについて（複数回答）

「6その他(住宅改修、福祉用具貸与・購入等)」(56.5%)の割合が最も高く、次いで「1訪問系サービス」(50.9%)となっている。

回答対象者：108名



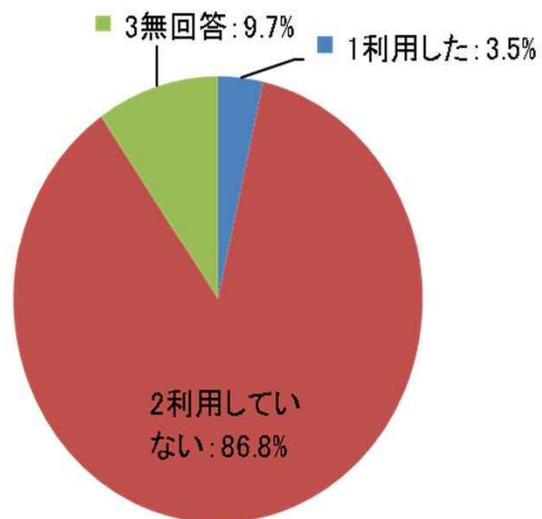
※ 直近1ヶ月間に利用したサービス

問21 あなたは認定疾病の療養期間中に介護保険制度外の介護サービスを利用しましたか（単数回答）

「2利用していない」(86.8%)の割合が高くなっている。

回答対象者：877名

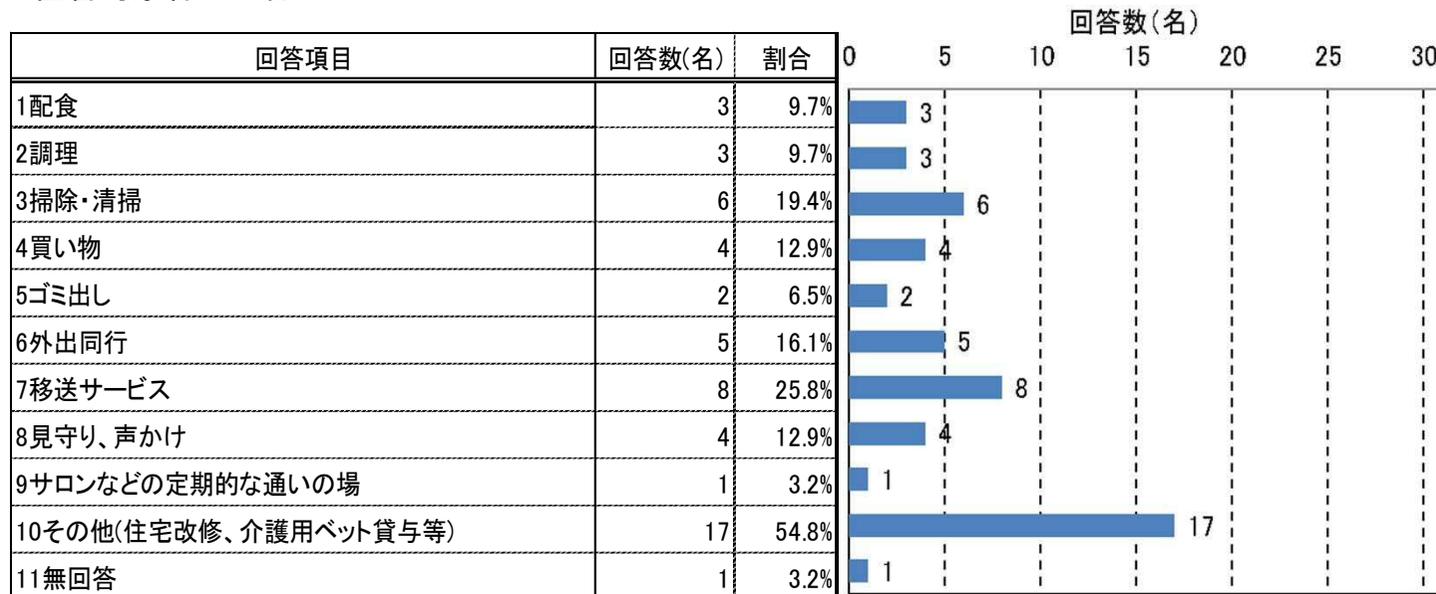
回答項目	回答数(名)	割合
1利用した	31	3.5%
2利用していない	761	86.8%
3無回答	85	9.7%
合計	877	100.0%



問22 あなたがここ1ヶ月の間に利用したすべてのサービスについて（複数回答）

「10その他(住宅改修、介護用ベッド貸与等)」(54.8%)の割合が最も高く、次いで「7移送サービス」(25.8%)となっている。

回答対象者：31名



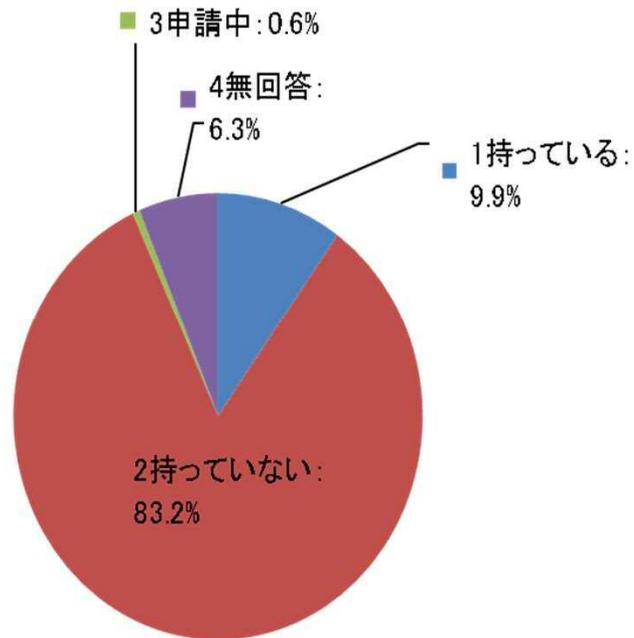
※ 直近1ヶ月間に利用したサービス

問23-1 あなたは認定疾病に係る身体障害者手帳をお持ちですか（単数回答）

「2持っていない」(83.2%)の割合が最も高くなっている。

回答対象者：877名

回答項目	回答数(名)	割合
1持っている	87	9.9%
2持っていない	730	83.2%
3申請中	5	0.6%
4無回答	55	6.3%
合計	877	100.0%

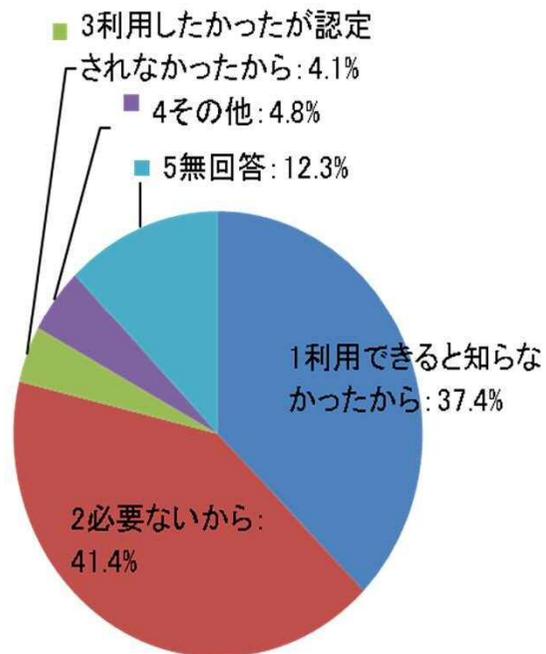


問23-2 身体障害者手帳を持っていない理由は何ですか（単数回答）

「2必要ないから」(41.4%)の割合が最も高く、次いで「利用できると知らなかったから」(37.4%)となっている。

回答対象者：730名

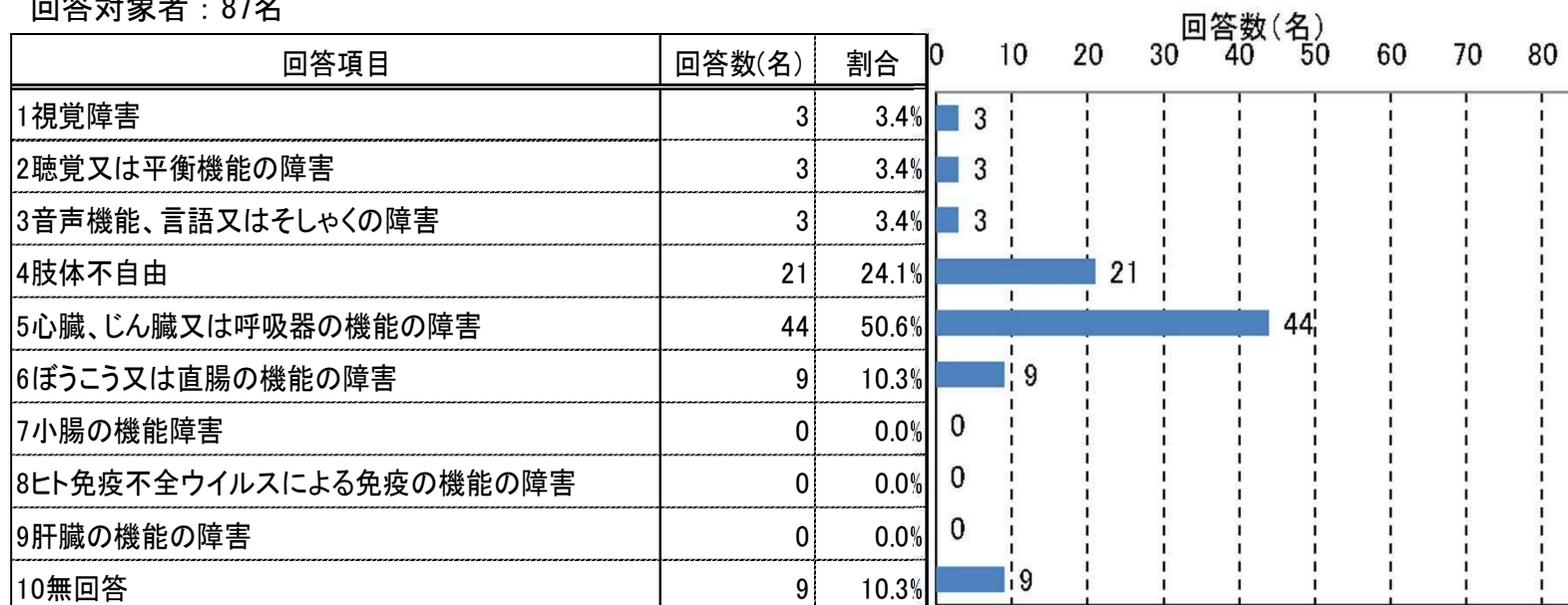
回答項目	回答数(名)	割合
1利用できると知らなかったから	273	37.4%
2必要ないから	302	41.4%
3利用したかったが認定されなかったから	30	4.1%
4その他(申請予定、検討中等)	35	4.8%
5無回答	90	12.3%
合計	730	100.0%



問24 身体障害者手帳の交付を受けている障害の種類について（複数回答）

「5心臓、じん臓又は呼吸器の機能の障害」(50.6%)の割合が最も高くなっている。

回答対象者：87名

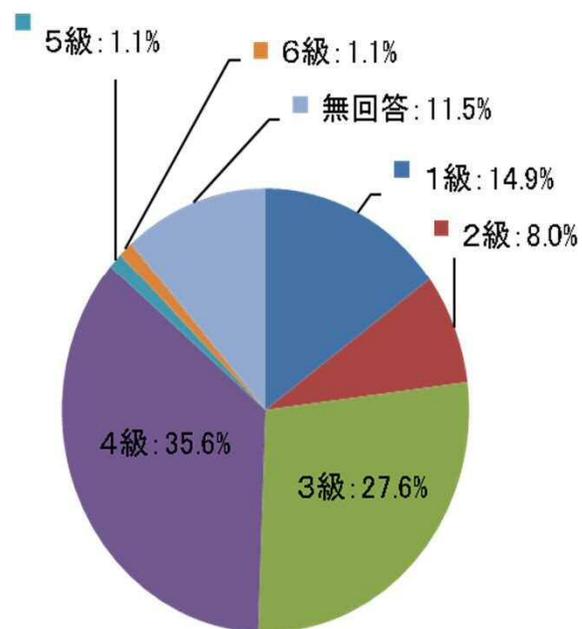


問25 あなたの現在の身体障害者等級について（単数回答）

「4級」(35.6%)の割合が最も高くなっている。

回答対象者：87名

回答項目	回答数(名)	割合
1級	13	14.9%
2級	7	8.0%
3級	24	27.6%
4級	31	35.6%
5級	1	1.1%
6級	1	1.1%
無回答	10	11.5%
合計	87	100.0%

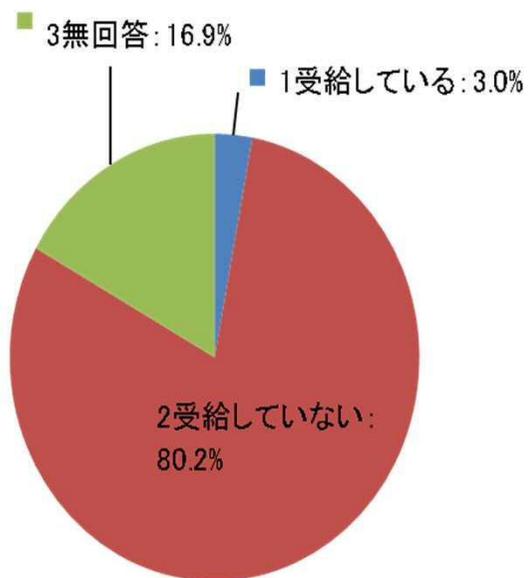


問26 あなたは認定疾病に係る障害基礎年金、障害厚生年金を受給していますか（単数回答）

「2受給していない」(80.2%)の割合が高くなっている。

回答対象者：877名

回答項目	回答数(名)	割合
1受給している	26	3.0%
2受給していない	703	80.2%
3無回答	148	16.9%
合計	877	100.0%



問27 障害認定を受けた障害について(複数回答)

「1呼吸器疾患による障害」(53.8%)の割合が最も高くなっている。

○ 障害認定を受けた障害について (複数回答) 回答対象者 : 26名

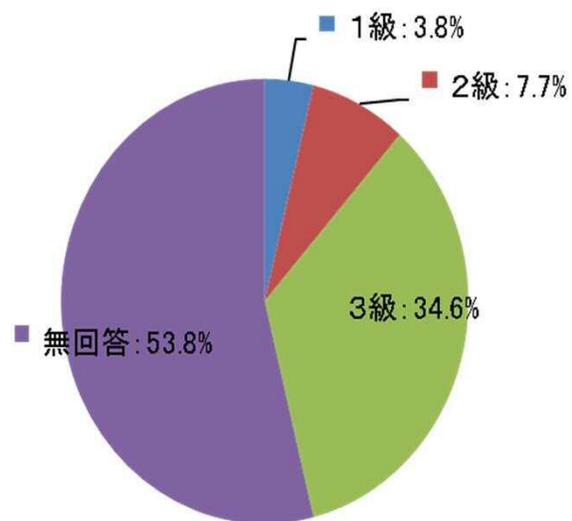


問28 あなたの現在の障害基礎年金、障害厚生年金の等級について(単数回答)

「3級」(34.6%)の割合が最も高くなっている。

○ 障害基礎年金、障害厚生年金の等級について 回答対象者：26名

回答項目	回答数(名)	割合
1級	1	3.8%
2級	2	7.7%
3級	9	34.6%
無回答	14	53.8%



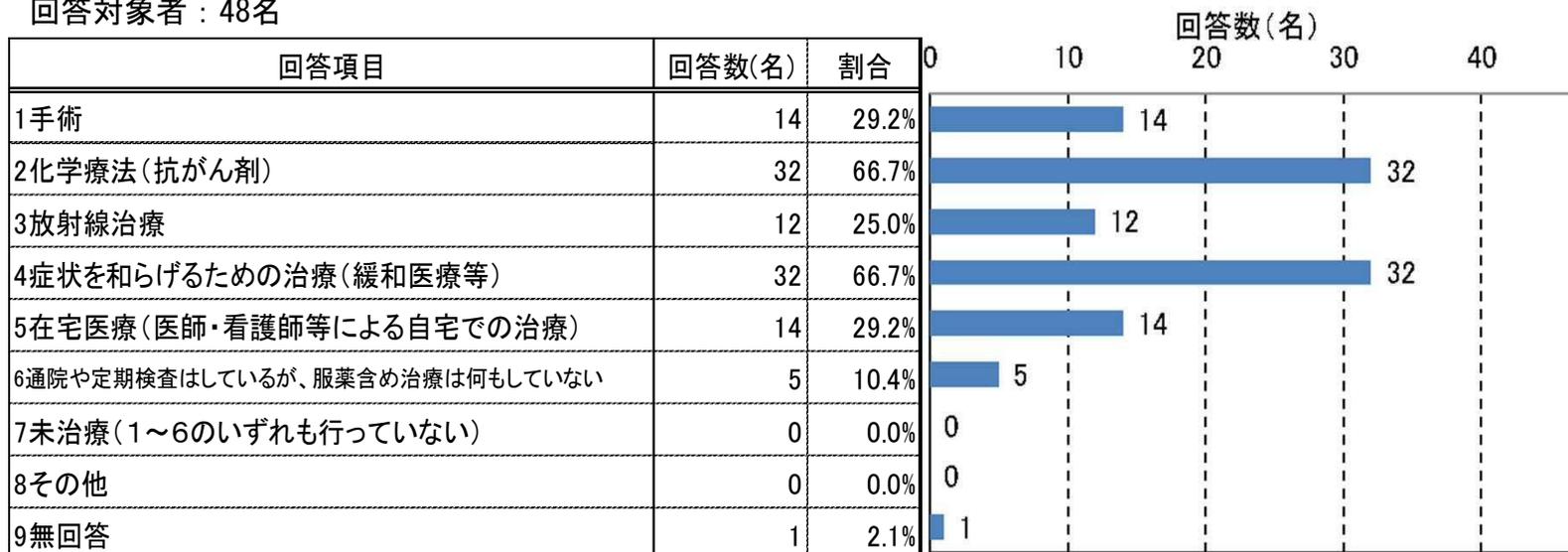
石綿健康被害救済制度被認定者の 介護等の実態調査結果

お亡くなりになった被認定者

問1 認定疾病に対して、被認定者の方が受けた治療はどれですか（複数回答）

「2化学療法(抗がん剤)」と「4症状を和らげるための治療(緩和医療等)」が66.7%で割合が最も高くなっている。

回答対象者：48名

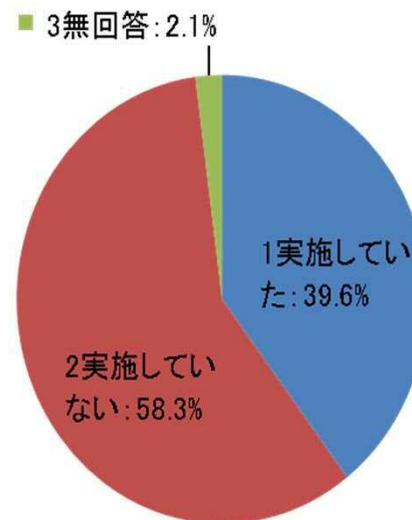


問2 認定疾病のため、被認定者の方は在宅酸素療法を実施していましたか（単数回答）

「2実施していない」(58.3%)の割合が高く、実施している場合の酸素流量は、平均値で安静時2.43リットル/分、運動時1.93リットル/分、睡眠時1.77リットル/分となっている。

回答対象者：48名

回答項目	回答数(名)	割合
1実施していた	19	39.6%
2実施していない	28	58.3%
3無回答	1	2.1%
合計	48	100.0%



○ 実施していた場合の酸素流量の設定

酸素流量	平均値	中央値	回答数(名)
安静時(リットル/分)	2.43	2.00	15
運動時(リットル/分)	1.93	1.50	15
睡眠時(リットル/分)	1.77	1.50	15

※ 実施していると回答した者のうち、安静時・運動時・睡眠時の全てに酸素流量の記載がない者を除いた値。
実施していると回答した者のうち、安静時・運動時・睡眠時のいずれか一つでも回答があり、その他の項目に空白があった場合は、空白の酸素流量を「0」として計算。

問3 通院に係る交通費について

医療機関の所在地別の年平均の交通費については、有効回答者の居住地と同一都道府県内が95,506円、同一都道府県外が1,200,000円、同一都道府県内・外にまたがる場合が94,800円となっており、合計では128,954円となっている。

回答対象者	48名
有効回答者	33名
回答不十分・無記名による無効	15名

回答対象者：48名

○ 通院場所別の頻度、交通費、通院目的について

	通院人数		通院頻度(回/年)		交通費(円/年)		通院目的(複数回答)			
			平均値	中央値	平均値	中央値	手前前後の通院	化学療法	放射線治療	その他
都道府県内	31名	93.9%	34.9	24	95,506	54,000	19名	17名	6名	28名
都道府県外	1名	3.0%	60	60	1,200,000	1,200,000	2名	1名	0名	1名
都道府県内外	1名	3.0%	108	108	94,800	94,800	1名	0名	0名	0名
合計	33名	100.0%	37.8	28	128,954	60,000	22名	18名	6名	29名

○ 通院場所別の医療機関数について

	1機関		2機関		3機関		4機関		5機関		全体	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
都道府県内	17名	54.8%	11名	35.5%	2名	6.5%	1名	3.2%	0名	0.0%	31名	100.0%
都道府県外	0名	0.0%	1名	100.0%	0名	0.0%	0名	0.0%	0名	0.0%	1名	100.0%
都道府県内外	0名	0.0%	1名	100.0%	0名	0.0%	0名	0.0%	0名	0.0%	1名	100.0%
合計	17名	51.5%	13名	39.4%	2名	6.1%	1名	3.0%	0名	0.0%	33名	100.0%

○ 通院手段別の頻度、交通費について

	通院人数		通院頻度(回/年)		交通費(円/年)	
			平均値	中央値	平均値	中央値
徒歩	0名	0.0%	-	-	-	-
自家用車	14名	40.0%	25.5	24	98,700	12,600
電車・バス	6名	17.1%	22.7	24	27,747	17,040
タクシー	14名	40.0%	45.4	36	174,171	168,000
その他	1名	2.9%	24	24	192,000	192,000

※ 通院が複数手段の方もおられるため複数回答(有効回答数33名)

問4 療養期間中、被認定者の方が認定疾病の治療のために医療機関に入院しましたか (単数回答)

「1入院した」の割合が100.0%となっており、平均入院回数は4.72回、1回当たりの入院平均日数は26.4日となっている。

回答対象者：48名

回答項目	回答数(名)	割合
1入院した	48	100.0%
2入院していない	0	0.0%
3無回答	0	0.0%
合計	48	100.0%



	平均値	中央値	回答数(名)
入院回数	4.72回	4回	46
1回当たりの入院日数	26.4日	20日	47

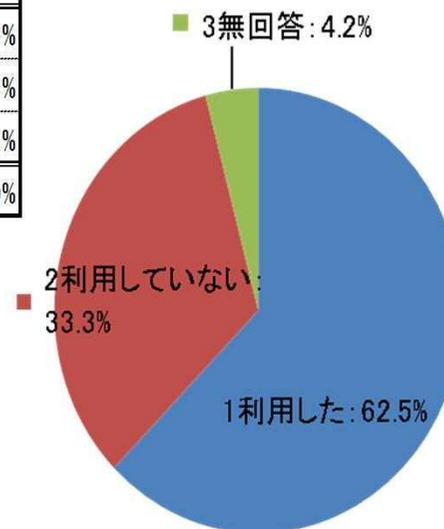
※ 回答のあった者の平均値、中央値

問5 入院に当たり、被認定者の方が差額ベッド(個室等)を利用しましたか (単数回答)

「1利用した」(62.5%)の割合が高く、利用した場合の1日当たりの平均費用は8,852円となっている。

回答対象者：48名

回答項目	回答数(名)	割合
1利用した	30	62.5%
2利用していない	16	33.3%
3無回答	2	4.2%
合計	48	100.0%



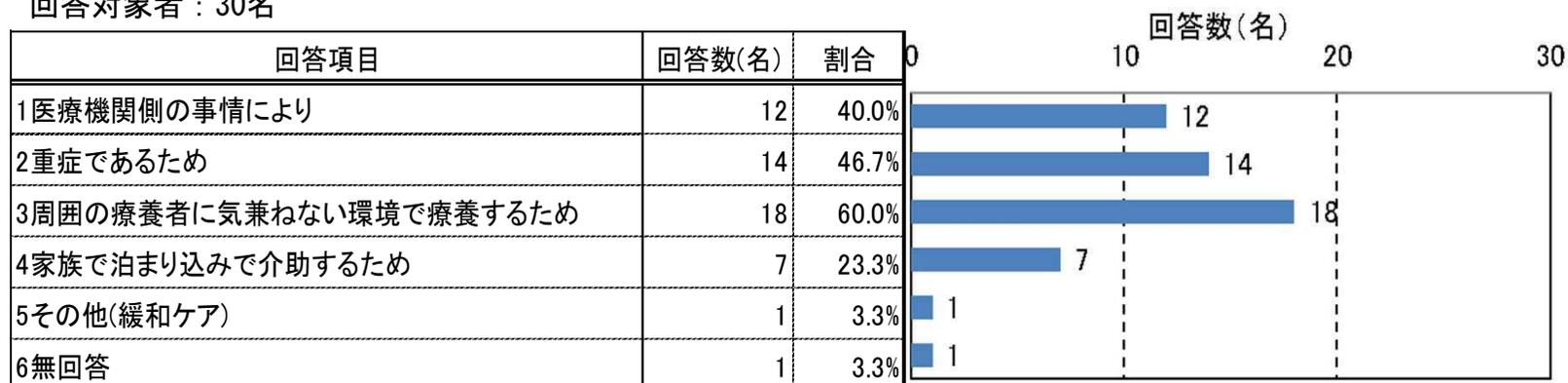
	平均値	中央値	回答数(名)
1日当たりの費用	8,852円	10,000円	25

※ 回答のあった者の平均値、中央値

問6 差額ベッドを利用した理由は何ですか（複数回答）

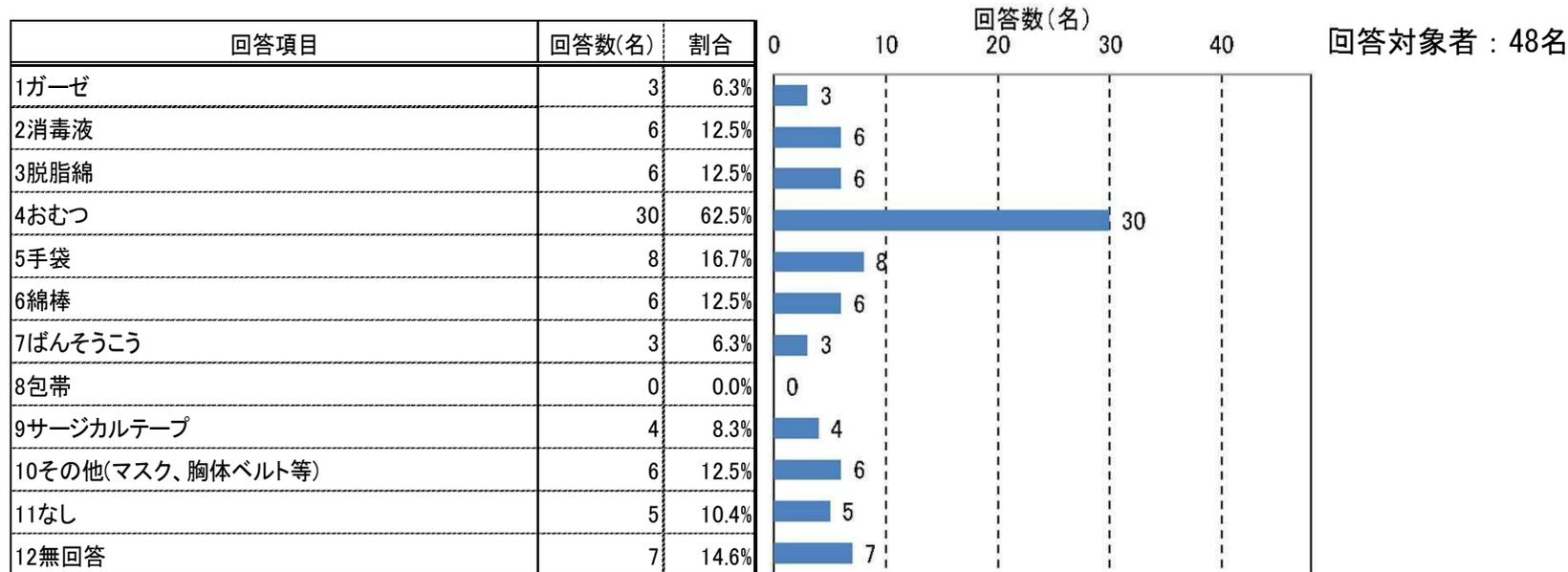
「3周囲の療養者に気兼ねない環境で療養するため」(60.0%)の割合が高く、次いで「2重症であるため」(46.7%)となっている。

回答対象者：30名



問7 被認定者の方が療養期間中に自己負担で利用していた衛生材料はありますか（複数回答）

「4おむつ」(62.5%)の割合が最も高く、費用負担額については、1か月当たりの項目別平均費用額は、「4おむつ」が最も高く7,064円で、1名あたりの1か月当たりの平均費用総額は7,193円となっている。



○ 費用負担について

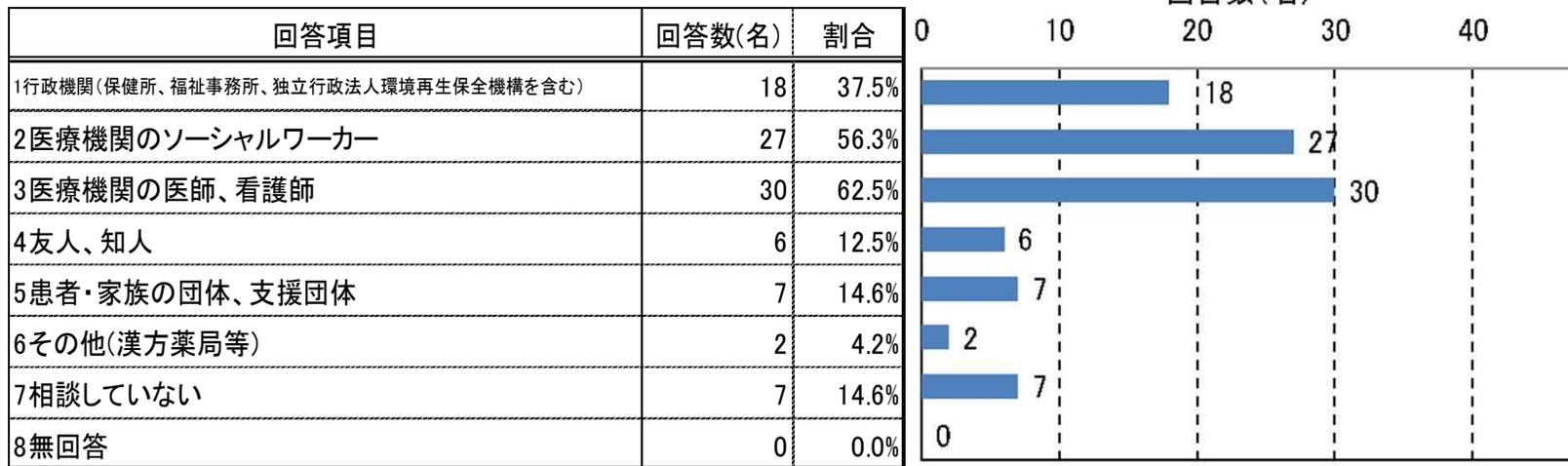
	一か月あたりの費用(平均値)	一か月あたりの費用(中央値)	回答数(名)
1ガーゼ	1,500円	1,500円	2
2消毒液	1,167円	1,000円	3
3脱脂綿	1,333円	1,000円	3
4おむつ	7,064円	5,000円	25
5手袋	633円	500円	6
6綿棒	420円	300円	5
7ばんそうこう	1,000円	1,000円	1
8包帯	-	-	-
9サージカルテープ	800円	800円	2
10その他	1,160円	1,000円	5
1名あたりの合計	7,193円	4,500円	28

※ 「自己負担なしと回答した者」及び「無回答の者」を除き、金額の回答のあった者の値。⁴⁴

問8 療養期間中に病気や療養生活等について、被認定者の方が相談した窓口等がありましたか（複数回答）

「3医療機関の医師、看護師」(62.5%)の割合が最も高く、次いで「2医療機関のソーシャルワーカー」(56.3%)となっている。

回答対象者：48名

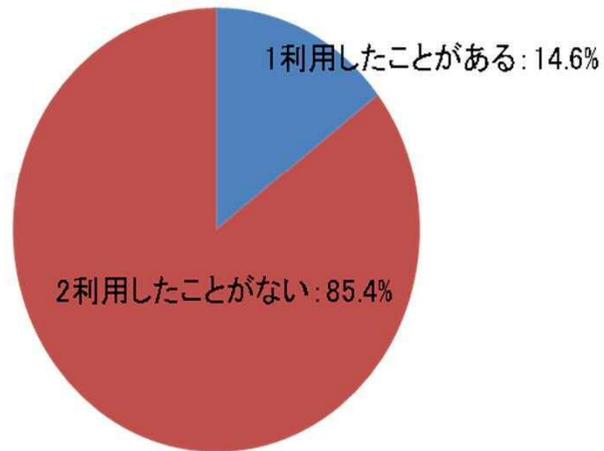


問9-1 療養期間中に、全国の「がん診療連携拠点病院」や「地域がん診療病院」に設置されているがん相談支援センターを利用したことがありますか（単数回答）

「2利用したことがない」(85.4%)の割合が高くなっている。

回答対象者：48名

回答項目	回答数(名)	割合
1利用したことがある	7	14.6%
2利用したことがない	41	85.4%
3無回答	0	0.0%
合計	48	100.0%

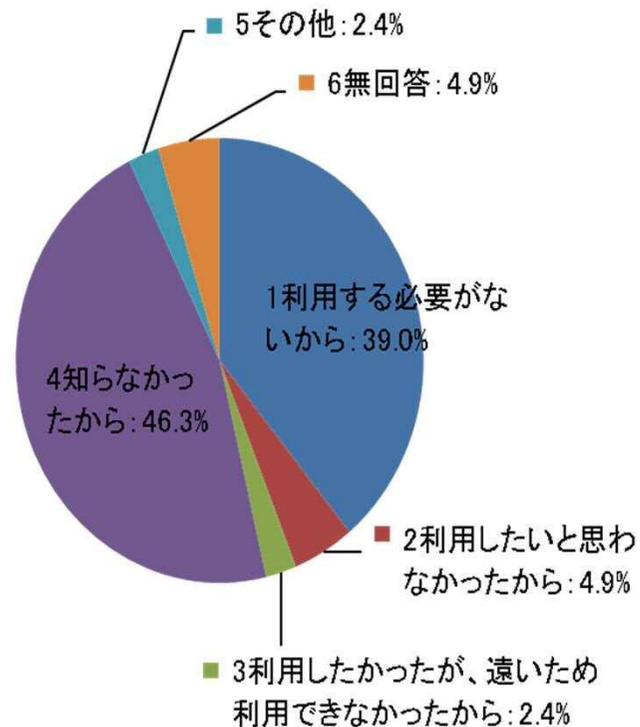


問9-2 がん相談支援センターを利用しなかった理由は何ですか（単数回答）

「4知らなかったから」(46.3%)の割合が最も高く、次いで「1利用する必要がなかったから」(39.0%)となっている。

回答対象者：41名

回答項目	回答数(名)	割合
1利用する必要がなかったから	16	39.0%
2利用したいと思わなかったから	2	4.9%
3利用したかったが、遠いため利用できなかったから	1	2.4%
4知らなかったから	19	46.3%
5その他(医療従事者の親族から情報が入るため)	1	2.4%
6無回答	2	4.9%
合計	41	100.0%

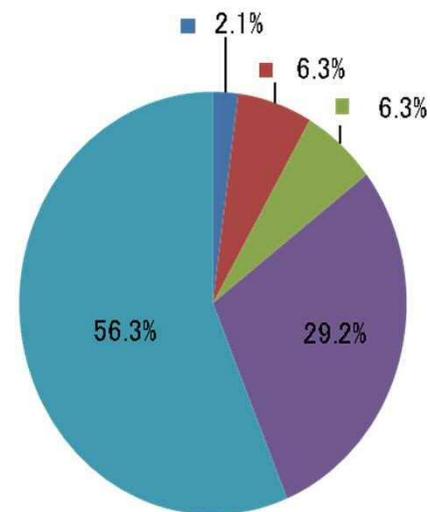


問10 療養が始まってからお亡くなりになるまでの間に、被認定者の方が認定疾病の障害によりどの程度身の周りの日常生活活動が制限されましたか（単数回答）

「5身のまわりのこともできず、常に介助を必要とし、終日就床を強いられ、活動の範囲がおおむねベッド周辺に限られる状況」(56.3%)の割合が最も高く、次いで「4身のまわりのある程度のことではできるが、しばしば介助が必要で、日中の50%以上はベッド周辺で生活しており、自力では屋外への外出等がほぼ不可能な状況」(29.2%)となっている。

回答対象者：48名

回答項目	回答数(名)	割合
■ 1無症状で社会活動ができ、制限を受けることなく、発病前と同等に活動できる状況	1	2.1%
■ 2軽度の症状があり、肉体労働は制限を受けるが、歩行、軽労働や座業はできる状況	3	6.3%
■ 3歩行や身のまわりのことではできるが、時に少し介助が必要なこともあり、軽労働はできないが、日中の50%以上はベッド周辺を離れて生活できる状況	3	6.3%
■ 4身のまわりのある程度のことではできるが、しばしば介助が必要で、日中の50%以上はベッド周辺で生活しており、自力で屋外への外出等がほぼ不可能な状況	14	29.2%
■ 5身のまわりのこともできず、常に介助を必要とし、終日就床を強いられ、活動の範囲がおおむねベッド周辺に限られる状況	27	56.3%
■ 6無回答	0	0.0%
合計	48	100.0%

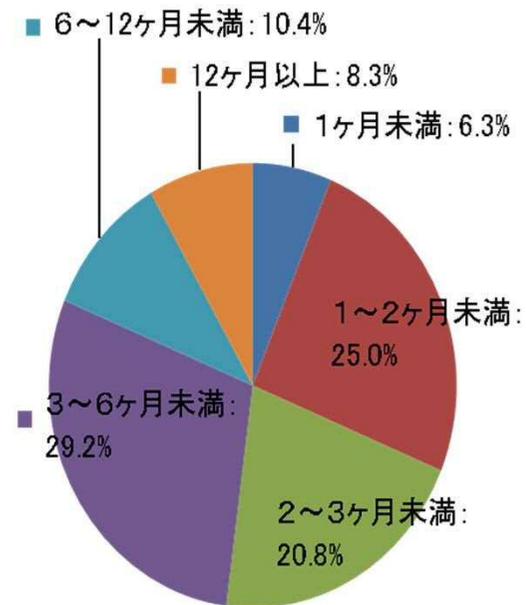


問11 最も制限された時からお亡くなりになるまでの期間（単数回答）

「3～6ヶ月未満」(29.2%)の割合が最も高くなっており、最も制限された時から死亡日までの期間は、平均値で3.9ヶ月となっている。

回答対象者：48名

回答項目	回答数(名)	割合
1ヶ月未満	3	6.3%
1～2ヶ月未満	12	25.0%
2～3ヶ月未満	10	20.8%
3～6ヶ月未満	14	29.2%
6～12ヶ月未満	5	10.4%
12ヶ月以上	4	8.3%
合計	48	100.0%



○ 最も制限された時から死亡日までの期間

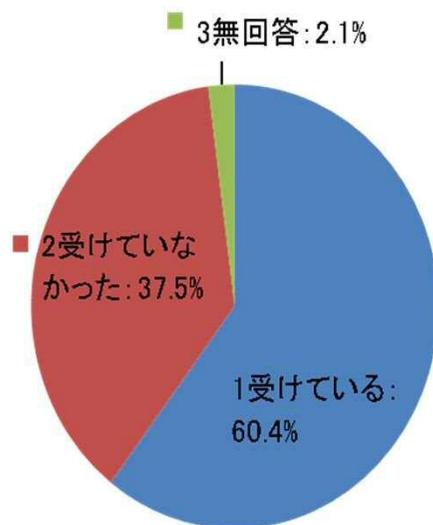
	平均値	中央値	最大値	最小値	最頻値	回答数
最も制限された時から死亡日までの期間	3.9ヶ月前	2ヶ月前	24ヶ月前	0.3ヶ月前	1.0ヶ月前	48名

問12-1 被認定者の方は、介護保険制度の要支援または要介護の認定を受けていましたか
(単数回答)

「1受けていた」(60.4%)の割合が高くなっている。

回答対象者：48名

回答項目	回答数(名)	割合
1受けていた	29	60.4%
2受けていなかった	18	37.5%
3無回答	1	2.1%
合計	48	100.0%

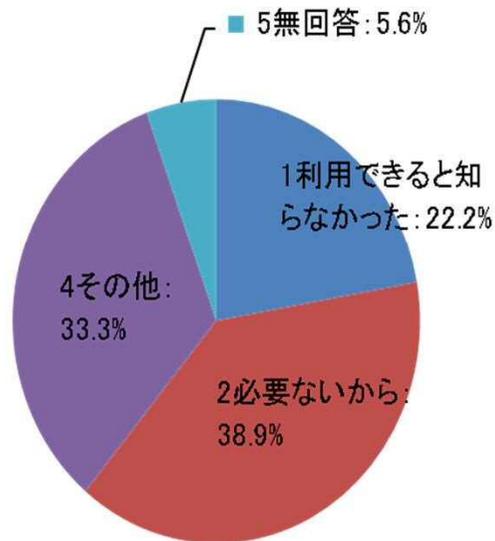


問12-2 介護保険制度を受けていなかった理由について（単数回答）

「2必要ないから」(38.9%)の割合が最も高く、次いで「4その他(申請中であった、認定前に入院した)」(33.3%)となっている。

回答対象者：18名

回答項目	回答数(名)	割合
1利用できると知らなかったから	4	22.2%
2必要ないから	7	38.9%
3利用したかったが認定されなかったから	0	0.0%
4その他(申請中であった、認定前に入院した)	6	33.3%
5無回答	1	5.6%
合計	18	100.0%



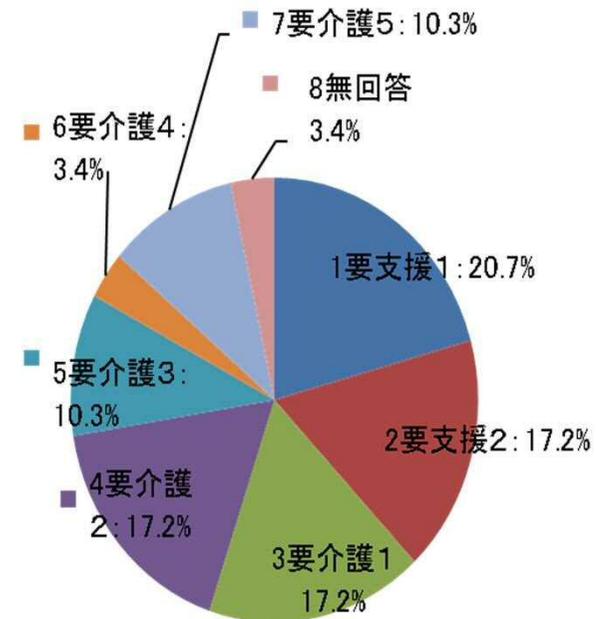
問13 要支援度・要介護度について（複数回答）

「要支援1」は20.7%、次いで「要支援2」、「要介護1」及び「要介護2」は17.2%の割合となっている。

回答対象者：29名

回答項目	回答数(名)	割合
1要支援1	6	20.7%
2要支援2	5	17.2%
3要介護1	5	17.2%
4要介護2	5	17.2%
5要介護3	3	10.3%
6要介護4	1	3.4%
7要介護5	3	10.3%
8無回答	1	3.4%
合計	29	100.0%

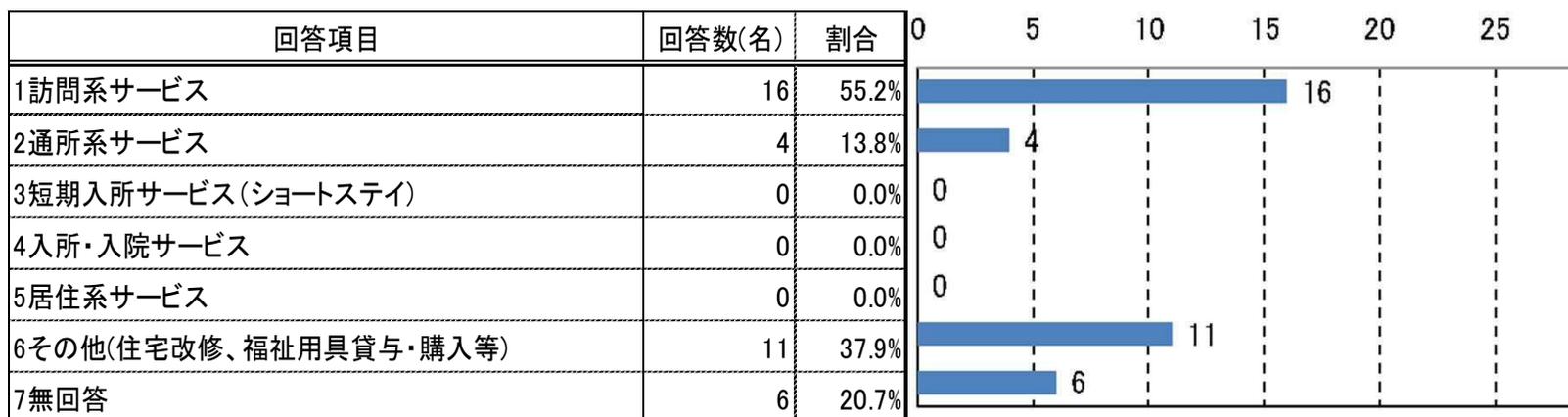
※ 複数回答の場合、最も重い等級を集計



問14 被認定者の方が療養期間中に利用したすべての介護保険制度によるサービスについて
(複数回答)

「1訪問系サービス」(55.2%)の割合が最も高く、次いで「6その他(住宅改修、福祉用具貸与・購入等)」(37.9%)となっている。

回答対象者：29名



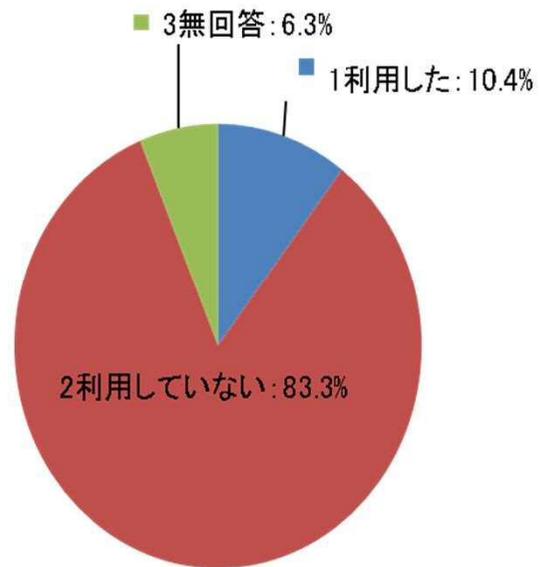
※ 療養期間中に利用したサービス

問15 被認定者の方は、認定疾病の療養期間中に介護保険制度外の介護サービスを利用しましたか（単数回答）

「2利用していない」(83.3%)の割合が高くなっている。

回答対象者：48名

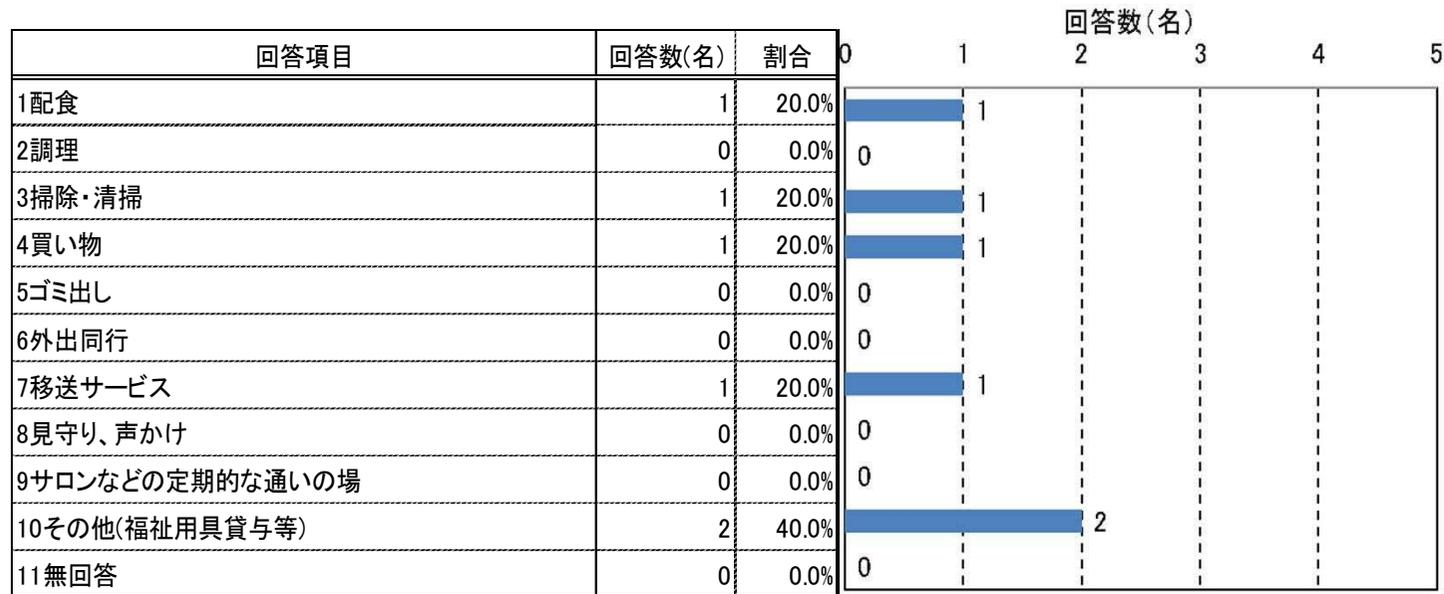
回答項目	回答数(名)	割合
1利用した	5	10.4%
2利用していない	40	83.3%
3無回答	3	6.3%
合計	48	100.0%



問16 被認定者の方が、療養期間中に利用したすべてのサービスについて（複数回答）

「10その他(福祉用具貸与等)」(40.0%)の割合が最も高くなっている。

回答対象者：5名



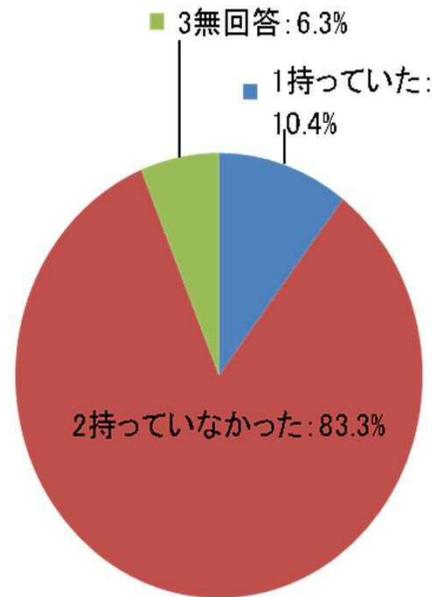
※ 療養期間中に利用したサービス

問17-1 被認定者の方は、認定疾病に係る身体障害者手帳をお持ちでしたか（単数回答）

「2持っていなかった」(83.3%)の割合が高くなっている。

回答対象者：48名

回答項目	回答数(名)	割合
1持っていた	5	10.4%
2持っていなかった	40	83.3%
3無回答	3	6.3%
合計	48	100.0%

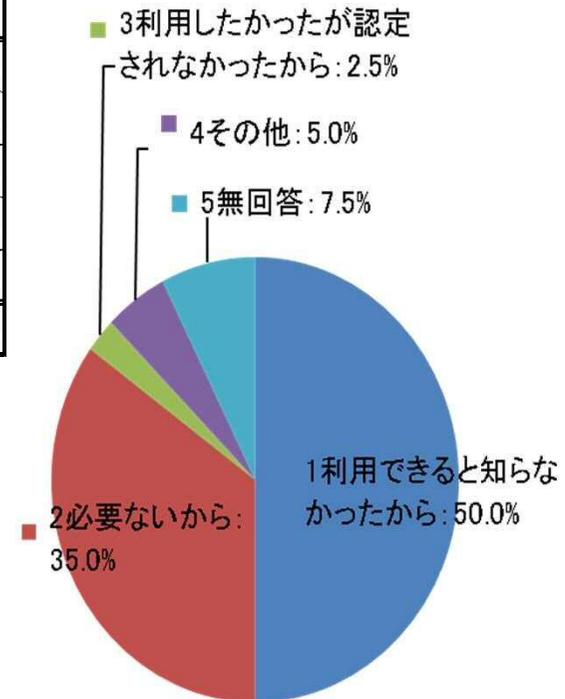


問17-2 身体障害者手帳を持っていなかった理由について（単数回答）

「1利用できると知らなかったから」（50.0%）の割合が最も高く、次いで「2必要ないから」（35.0%）となっている。

回答対象者：40名

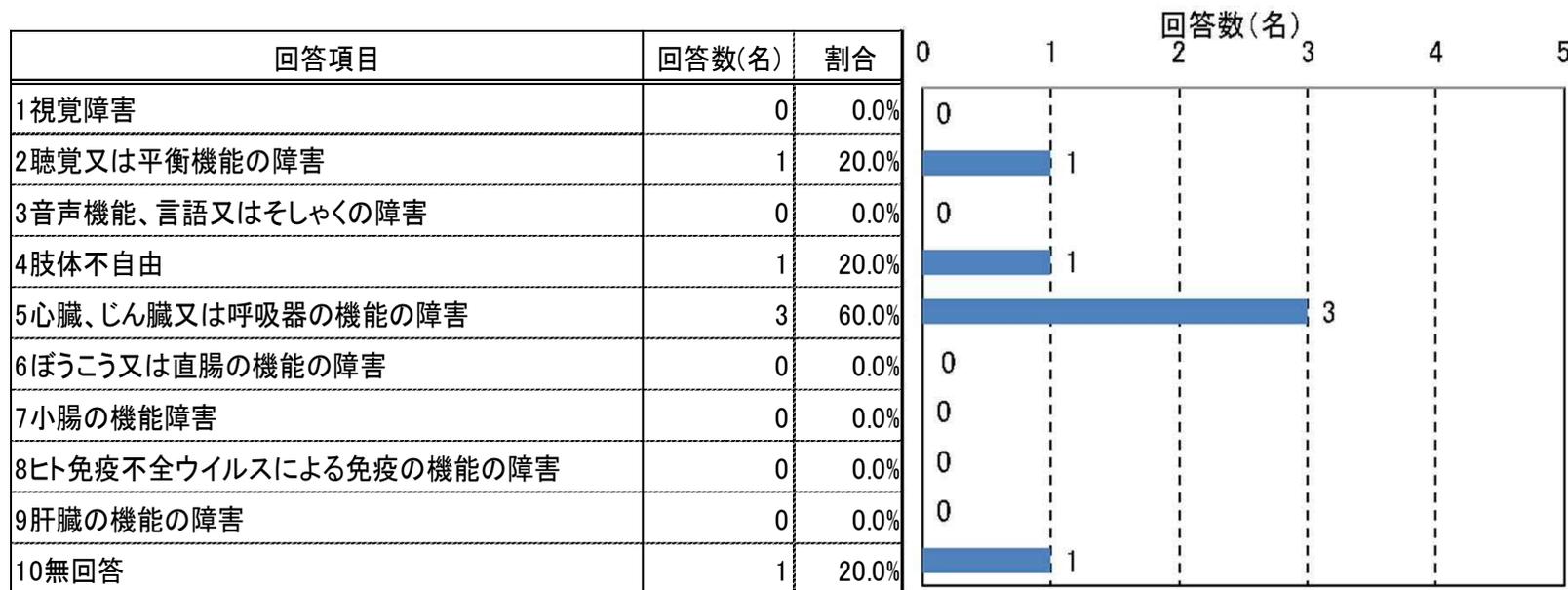
回答項目	回答数(名)	割合
1利用できると知らなかったから	20	50.0%
2必要ないから	14	35.0%
3利用したかったが認定されなかったから	1	2.5%
4その他(申請中であった)	2	5.0%
5無回答	3	7.5%
合計	40	100.0%



問18 身体障害者手帳の交付を受けている障害の種類について（複数回答）

「5心臓、じん臓又は呼吸器の機能の障害」(60.6%)の割合が最も高くなっている。

回答対象者：5名

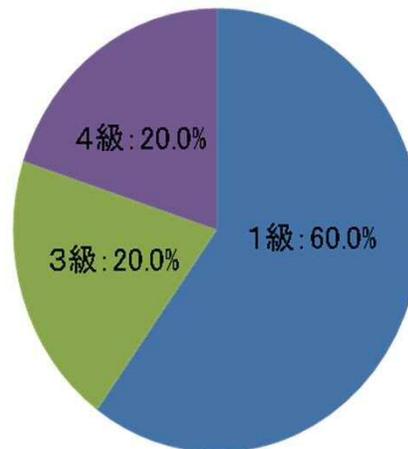


問19 該当する身体障害者等級（単数回答）

「1級」(60.0%)の割合が最も高くなっている。

回答対象者：5名

回答項目	回答数(名)	割合
1級	3	60.0%
2級	0	0.0%
3級	1	20.0%
4級	1	20.0%
5級	0	0.0%
6級	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	5	100.0%



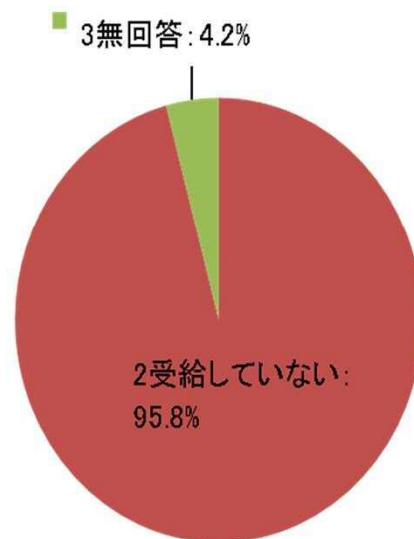
※ 複数回答の場合、最も重い等級を集計

問20 被認定者の方は、認定疾病に係る障害基礎年金、障害厚生年金を受給していましたか
(単数回答)

「2受給していない」(95.8%)の割合が高くなっている。

回答対象者：48名

回答項目	回答数(名)	割合
1受給していた	0	0.0%
2受給していない	46	95.8%
3無回答	2	4.2%
合計	48	100.0%



問21 障害認定を受けた障害について

※ お亡くなりになった被認定者の回答対象者は0名であった

問22 障害基礎年金、障害厚生年金の等級について

※ お亡くなりになった被認定者の回答対象者は0名であった

參考資料

○ 調査対象者の内訳（調査票を送付した者）

年齢(平成29年7月14日時点)・性別・指定疾病は機構のシステムで保有する情報から集計したもの

療養中の被認定者

	男性(人)		女性(人)		合計(人)	
40歳未満	5	0.7%	11	4.5%	16	1.6%
40～49歳	19	2.5%	24	9.7%	43	4.3%
50～59歳	57	7.5%	26	10.5%	83	8.3%
60～69歳	229	30.2%	69	27.9%	298	29.6%
70～79歳	333	43.9%	80	32.4%	413	41.1%
80歳以上	116	15.3%	37	15.0%	153	15.2%
65歳以上(再掲)	613	80.8%	159	64.4%	772	76.7%
合計	759	100.0%	247	100.0%	1,006	100.0%

	人数(人)	割合	平均年齢
中皮腫	692	68.8%	67.9歳
肺がん	271	26.9%	73.7歳
石綿肺	3	0.3%	76.0歳
びまん性胸膜肥厚	40	4.0%	73.2歳
合計	1,006	100.0%	69.7歳

お亡くなりになった被認定者

	男性(人)		女性(人)		合計(人)	
40歳未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
40～49歳	1	1.3%	0	0.0%	1	1.0%
50～59歳	1	1.3%	4	16.0%	5	5.0%
60～69歳	14	18.7%	4	16.0%	18	18.0%
70～79歳	37	49.3%	10	40.0%	47	47.0%
80歳以上	22	29.3%	7	28.0%	29	29.0%
65歳以上(再掲)	71	94.7%	19	76.0%	90	90.0%
合計	75	100.0%	25	100.0%	100	100.0%

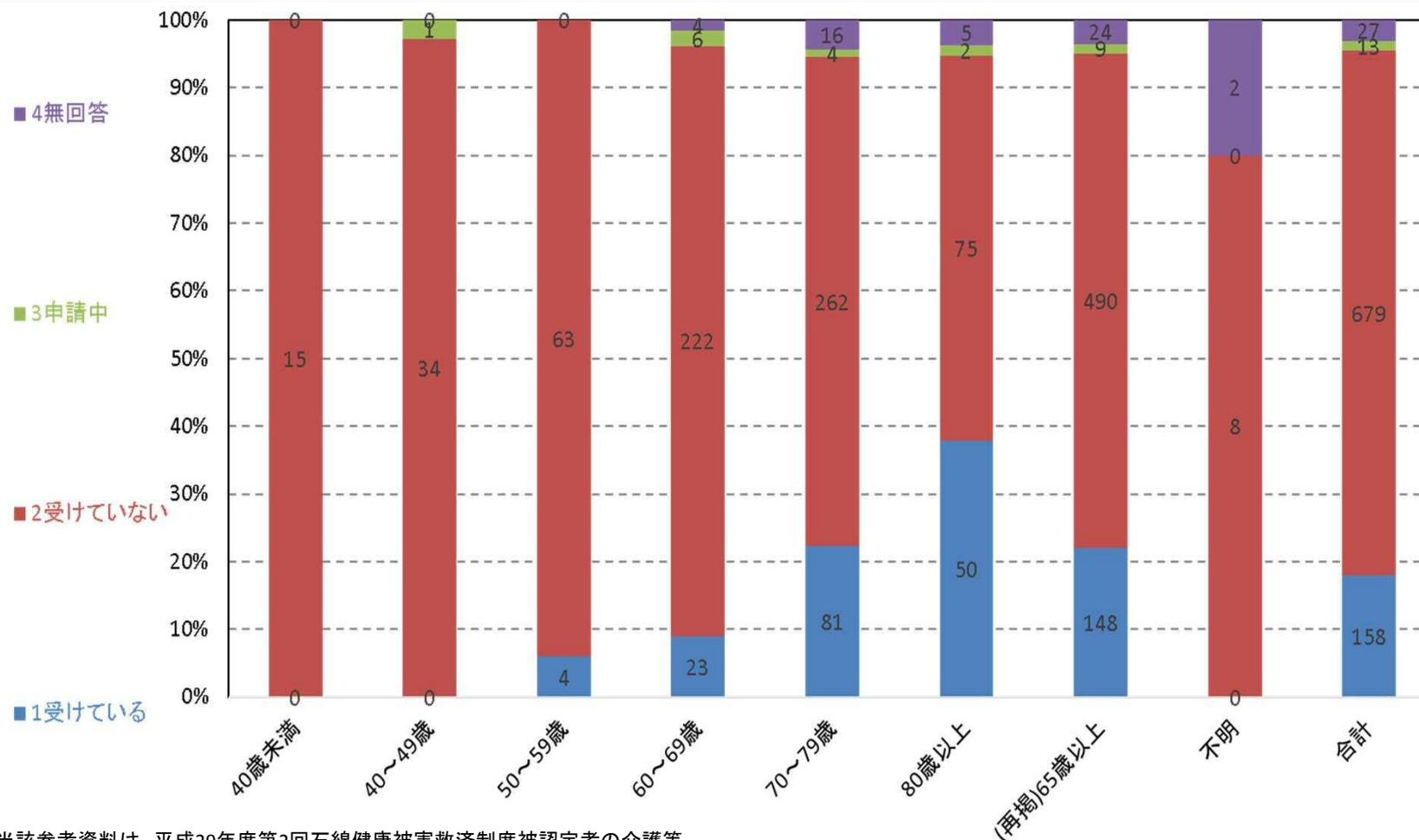
	人数(人)	割合	平均年齢
中皮腫	92	92.0%	73.9歳
肺がん	7	7.0%	75.9歳
石綿肺	1	1.0%	85.0歳
びまん性胸膜肥厚	0	0.0%	-
合計	100	100.0%	74.2歳

※ 年齢：お亡くなりになった年齢

※当該参考資料は、平成29年度第2回石綿健康被害救済制度被認定者の介護等の実態調査に関する検討会資料3より抜粋のもの。

介護保険制度認定状況の年齢別集計について（療養中の被認定者）

	40歳未満		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70～79歳		80歳以上		(再掲)65歳以上		不明		合計	
1受けている	0	0.0%	0	0.0%	4	6.0%	23	9.0%	81	22.3%	50	37.9%	148	22.1%	0	0.0%	158	18.0%
2受けていない	15	100.0%	34	97.1%	63	94.0%	222	87.1%	262	72.2%	75	56.8%	490	73.0%	8	80.0%	679	77.4%
3申請中	0	0.0%	1	2.9%	0	0.0%	6	2.4%	4	1.1%	2	1.5%	9	1.3%	0	0.0%	13	1.5%
4無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	1.6%	16	4.4%	5	3.8%	24	3.6%	2	20.0%	27	3.1%
合計	15	100.0%	35	100.0%	67	100.0%	255	100.0%	363	100.0%	132	100.0%	671	100.0%	10	100.0%	877	100.0%

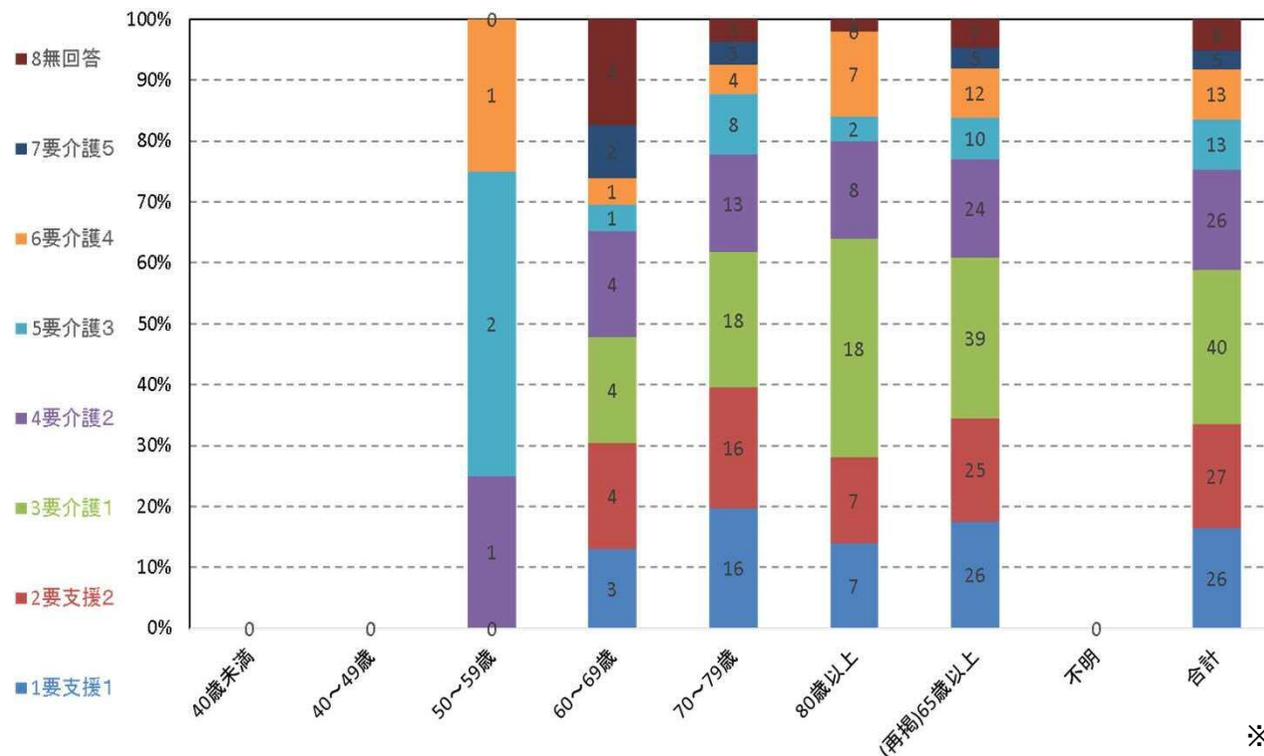


※当該参考資料は、平成29年度第2回石綿健康被害救済制度被認定者の介護等の実態調査に関する検討会資料3より抜粋のもの。

※ グラフ中の数字は回答人数

要支援度・要介護度の年齢別集計について（療養中の被認定者）

	40歳未満		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70～79歳		80歳以上		(再掲)65歳以上		不明		合計	
1要支援1	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.2%	16	4.4%	7	5.3%	26	3.9%	0	0.0%	26	3.0%
2要支援2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	1.6%	16	4.4%	7	5.3%	25	3.7%	0	0.0%	27	3.1%
3要介護1	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	1.6%	18	5.0%	18	13.6%	39	5.8%	0	0.0%	40	4.6%
4要介護2	0	0.0%	0	0.0%	1	1.5%	4	1.6%	13	3.6%	8	6.1%	24	3.6%	0	0.0%	26	3.0%
5要介護3	0	0.0%	0	0.0%	2	3.0%	1	0.4%	8	2.2%	2	1.5%	10	1.5%	0	0.0%	13	1.5%
6要介護4	0	0.0%	0	0.0%	1	1.5%	1	0.4%	4	1.1%	7	5.3%	12	1.8%	0	0.0%	13	1.5%
7要介護5	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.8%	3	0.8%	0	0.0%	5	0.7%	0	0.0%	5	0.6%
8無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	1.6%	3	0.8%	1	0.8%	7	1.0%	0	0.0%	8	0.9%
合計	0	0.0%	0	0.0%	4	6.0%	23	9.0%	81	22.3%	50	37.9%	148	22.1%	0	0.0%	158	18.0%



※ グラフ中の数字は回答人数

※当該参考資料は、平成29年度第2回石綿健康被害救済制度被認定者の介護等の実態調査に関する検討会資料3より抜粋のもの。

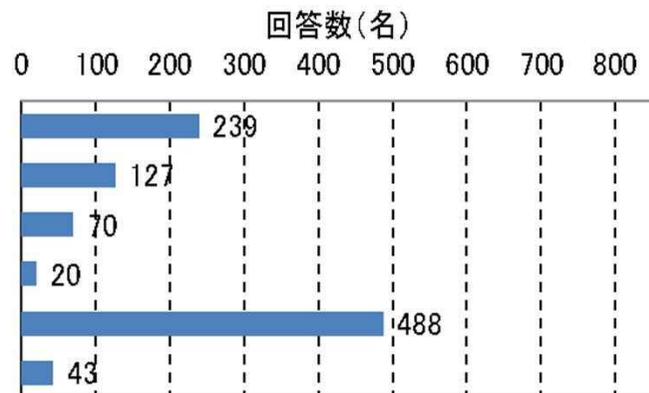
医療機関を受診している身体活動に影響しうる疾患について

療養中の被認定者：問12

療養中の被認定者

回答対象者：877名

回答項目	回答数(名)	割合
1足や腰など運動器に関する疾患(関節炎、腰痛症など)	239	27.3%
2心臓の機能が低下する疾患(心筋梗塞、心不全など)	127	14.5%
3脳卒中などの脳に関する疾患(脳梗塞、脳出血など)	70	8.0%
4認知機能に関する疾患(認知症など)	20	2.3%
51～4に該当する疾患なし	488	55.6%
6無回答	43	4.9%



※当該参考資料は、平成29年度第2回石綿健康被害救済制度被認定者の介護等の実態調査に関する検討会資料3より抜粋のもの。

認定疾病の障害による日常生活活動の制限の年齢別集計について①

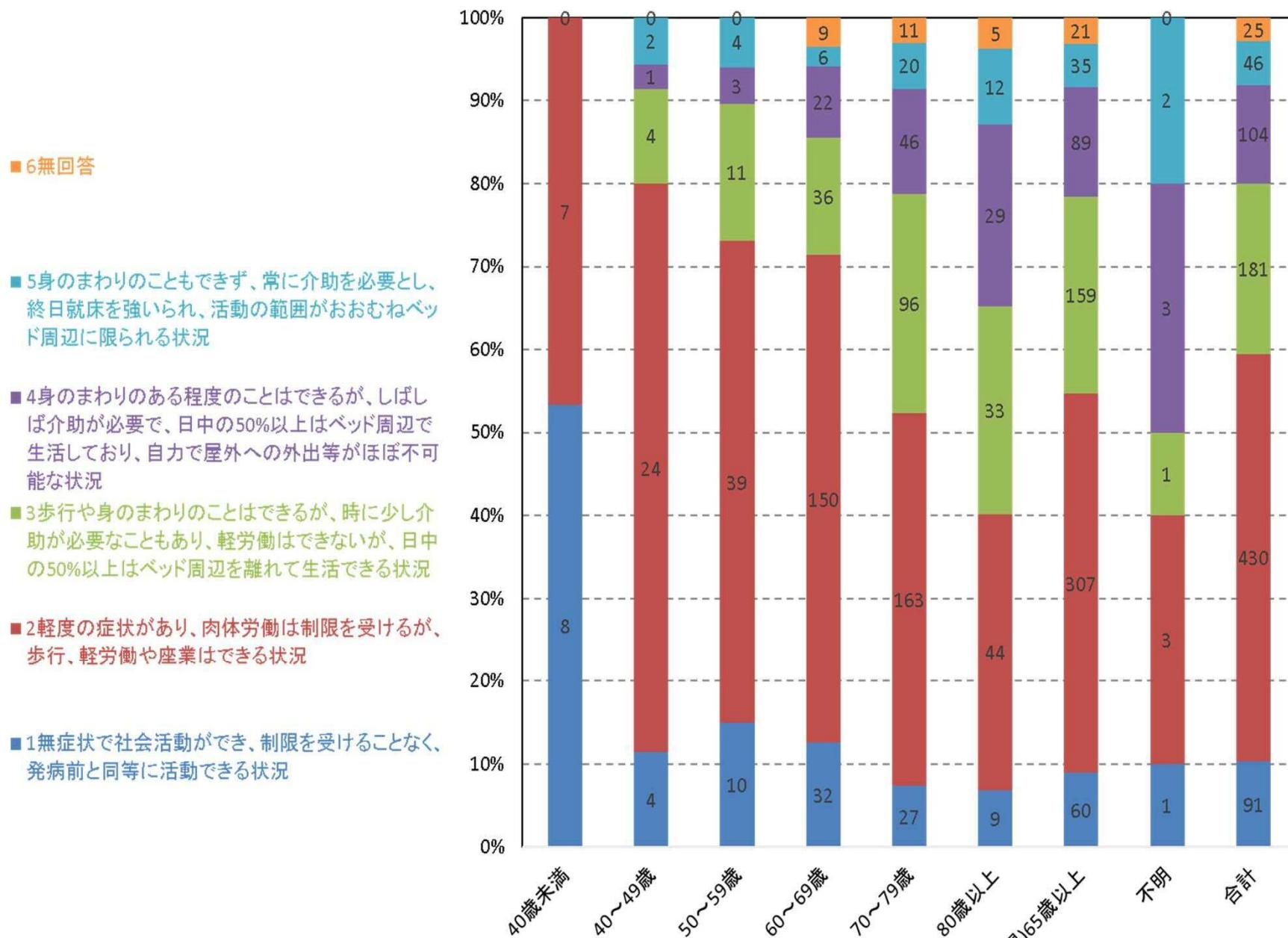
(療養中の被認定者)

(単位：人)

	40歳未満		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70～79歳		80歳以上		(再掲)65歳以上		不明		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
■ 1無症状で社会活動ができ、制限を受けることなく、発病前と同等に活動できる状況	8	53.3%	4	11.4%	10	14.9%	32	12.5%	27	7.4%	9	6.8%	60	8.9%	1	10.0%	91	10.4%
■ 2軽度の症状があり、肉体労働は制限を受けるが、歩行、軽労働や座業はできる状況	7	46.7%	24	68.6%	39	58.2%	150	58.8%	163	44.9%	44	33.3%	307	45.8%	3	30.0%	430	49.0%
■ 3歩行や身のまわりのことはできるが、時に少し介助が必要なこともあり、軽労働はできないが、日中の50%以上はベッド周辺を離れて生活できる状況	0	0.0%	4	11.4%	11	16.4%	36	14.1%	96	26.4%	33	25.0%	159	23.7%	1	10.0%	181	20.6%
■ 4身のまわりのある程度のことではできるが、しばしば介助が必要で、日中の50%以上はベッド周辺で生活しており、自力で屋外への外出等がほぼ不可能な状況	0	0.0%	1	2.9%	3	4.5%	22	8.6%	46	12.7%	29	22.0%	89	13.3%	3	30.0%	104	11.9%
■ 5身のまわりのこともできず、常に介助を必要とし、終日就床を強いられ、活動の範囲がおおむねベッド周辺に限られる状況	0	0.0%	2	5.7%	4	6.0%	6	2.4%	20	5.5%	12	9.1%	35	5.2%	2	20.0%	46	5.2%
■ 6無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	9	3.5%	11	3.0%	5	3.8%	21	3.1%	0	0.0%	25	2.9%
合計	15	100.0%	35	100.0%	67	100.0%	255	100.0%	363	100.0%	132	100.0%	671	100.0%	10	100.0%	877	100.0%

※当該参考資料は、平成29年度第2回石綿健康被害救済制度被認定者の介護等の実態調査に関する検討会資料3より抜粋のもの。

認定疾病の障害による日常生活活動の制限の年齢別集計について② (療養中の被認定者)



※当該参考資料は、平成29年度第2回石綿健康被害救済制度被認定者の介護等の実態調査に関する検討会資料3より抜粋のもの。

※ グラフ中の数字は回答人数 68

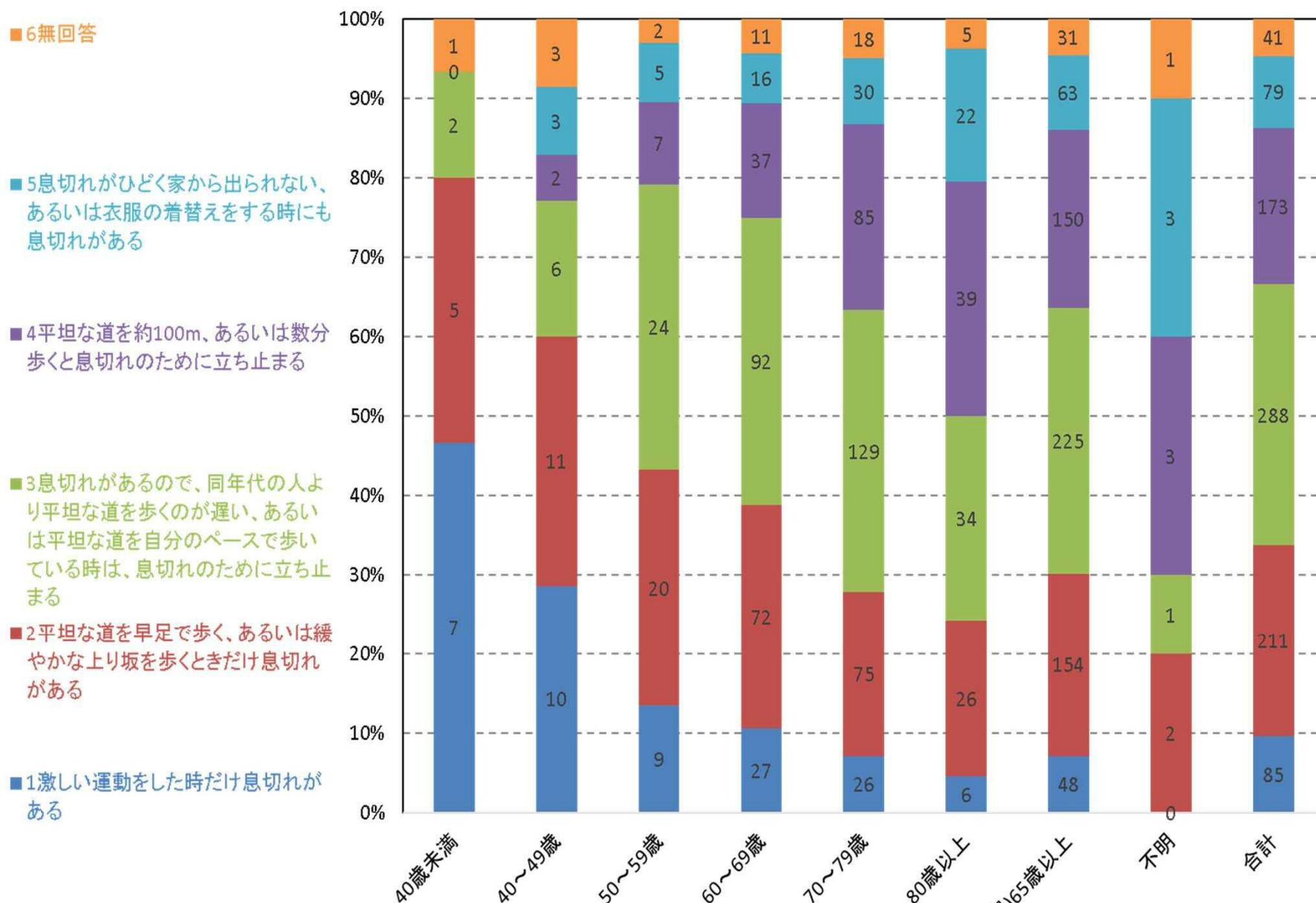
運動時の息切れ程度の年齢別集計について①(療養中の被認定者)

(単位：人)

	40歳未満		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70～79歳		80歳以上		(再掲)65歳以上		不明		合計	
1激しい運動をした時だけ息切れがある	7	46.7%	10	28.6%	9	13.4%	27	10.6%	26	7.2%	6	4.5%	48	7.2%	0	0.0%	85	9.7%
2平坦な道を早足で歩く、あるいは緩やかな上り坂を歩くときだけ息切れがある	5	33.3%	11	31.4%	20	29.9%	72	28.2%	75	20.7%	26	19.7%	154	23.0%	2	20.0%	211	24.1%
3息切れがあるので、同年代の人より平坦な道を歩くのが遅い、あるいは平坦な道を自分のペースで歩いている時は、息切れのために立ち止まる	2	13.3%	6	17.1%	24	35.8%	92	36.1%	129	35.5%	34	25.8%	225	33.5%	1	10.0%	288	32.8%
4平坦な道を約100m、あるいは数分歩くと息切れのために立ち止まる	0	0.0%	2	5.7%	7	10.4%	37	14.5%	85	23.4%	39	29.5%	150	22.4%	3	30.0%	173	19.7%
5息切れがひどく家から出られない、あるいは衣服の着替えをする時にも息切れがある	0	0.0%	3	8.6%	5	7.5%	16	6.3%	30	8.3%	22	16.7%	63	9.4%	3	30.0%	79	9.0%
6無回答	1	6.7%	3	8.6%	2	3.0%	11	4.3%	18	5.0%	5	3.8%	31	4.6%	1	10.0%	41	4.7%
合計	15	100.0%	35	100.0%	67	100.0%	255	100.0%	363	100.0%	132	100.0%	671	100.0%	10	100.0%	877	100.0%

※当該参考資料は、平成29年度第2回石綿健康被害救済制度被認定者の介護等の実態調査に関する検討会資料3より抜粋のもの。

運動時の息切れ程度の年齢別集計について②(療養中の被認定者)



※当該参考資料は、平成29年度第2回石綿健康被害救済制度被認定者の介護等の実態調査に関する検討会資料3より抜粋のもの。

※ グラフ中の数字は回答人数 70

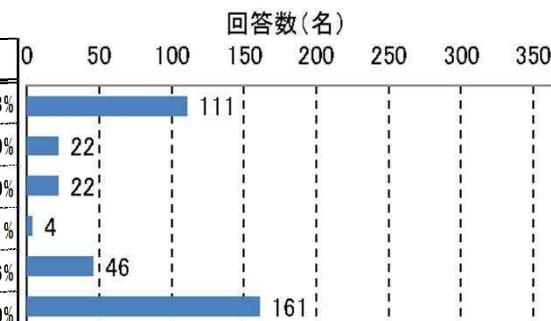
療養中の被認定者における活動時の詳細な状況（PADL表）に関する 屋外歩行および会話における距離・場所について

○ 屋外歩行(距離)

平均値	中央値	有効回答者
1029m	500m	366名

※ 有効回答者:P36の有効回答者のうち、0を除いた距離の具体的な数字の記載がある者

項目	回答数(名)	割合
100m以下	111	30.3%
101~200m	22	6.0%
201~300m	22	6.0%
301~400m	4	1.1%
401~500m	46	12.6%
501m以上	161	44.0%

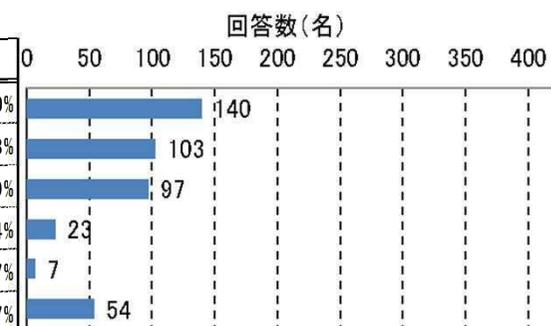


○ 屋外歩行(時間)

平均値	中央値	有効回答者
26分	20分	424名

※ 有効回答者:P36の有効回答者のうち、0を除いた時間の具体的な数字の記載がある者

項目	回答数(名)	割合
10分以下	140	33.0%
11~20分	103	24.3%
21~30分	97	22.9%
31~40分	23	5.4%
41~50分	7	1.7%
51分以上	54	12.7%

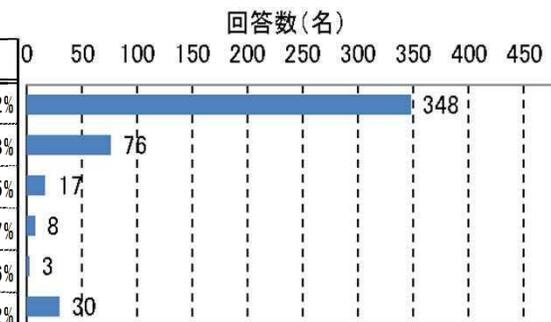


○ 会話(時間)

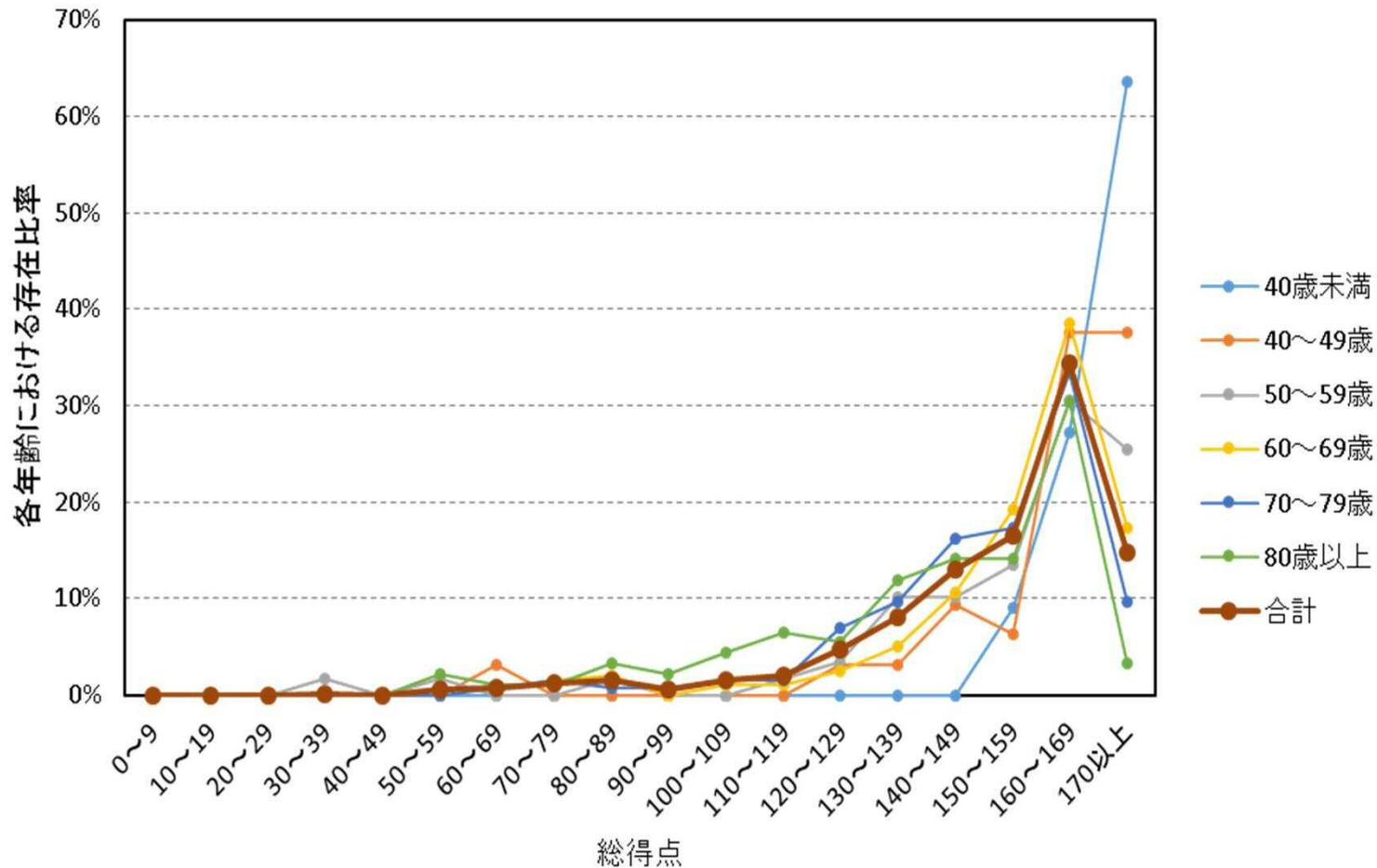
平均値	中央値	有効回答者
2.54時間	1時間	482名

※ 有効回答者:P36の有効回答者のうち、会話の項目において、点数部分に全て記載があり、0を除いた時間の具体的な数字の記載がある者

項目	回答数(名)	割合
1時間以下	348	72.2%
1.1~2時間	76	15.8%
2.1~3時間	17	3.5%
3.1~4時間	8	1.7%
4.1~5時間	3	0.6%
5.1時間以上	30	6.2%



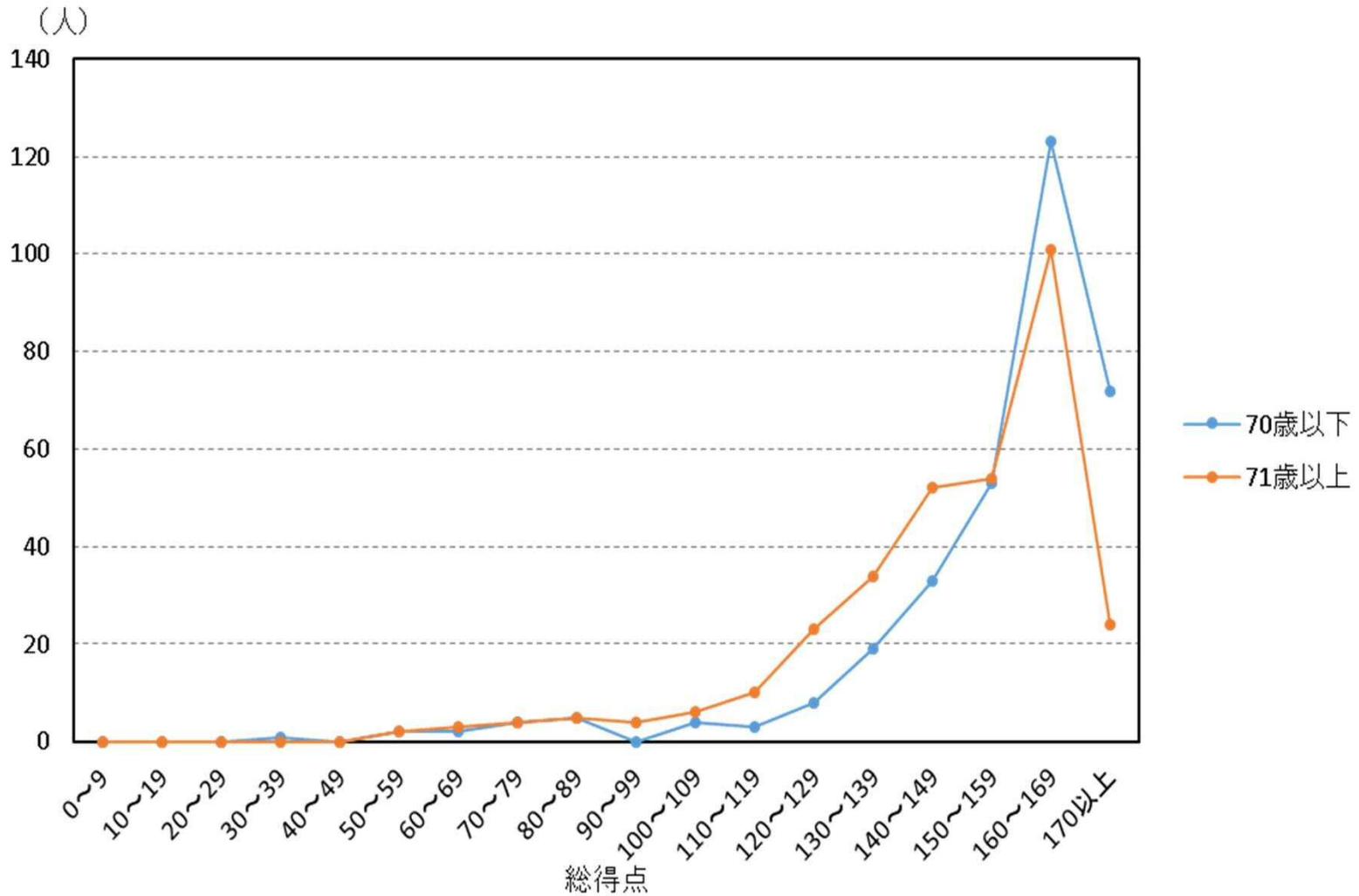
総得点の分布について(10歳毎年齢別)



	0~9点	10~19点	20~29点	30~39点	40~49点	50~59点	60~69点	70~79点	80~89点	90~99点	100~109点	110~119点	120~129点	130~139点	140~149点	150~159点	160~169点	170点以上	合計		
40歳未満	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 9.1%	3 27.3%	7 63.6%	11 100.0%
40~49歳	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.1%	1 3.1%	3 9.4%	2 6.3%	12 37.5%	12 37.5%	32 100.0%	
50~59歳	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.7%	0 0.0%	1 1.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.7%	2 3.4%	6 10.2%	6 10.2%	8 13.6%	18 30.5%	15 25.4%	59 100.0%		
60~69歳	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%	1 0.5%	3 1.5%	4 2.0%	0 0.0%	2 1.0%	2 1.0%	5 2.5%	10 5.1%	21 10.7%	38 19.3%	76 38.6%	34 17.3%	197 100.0%		
70~79歳	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.8%	4 1.5%	2 0.8%	2 0.8%	4 1.5%	4 1.5%	18 6.9%	25 9.6%	42 16.2%	45 17.3%	87 33.5%	25 9.6%	260 100.0%		
80歳以上	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.2%	1 1.1%	1 1.1%	3 3.3%	2 2.2%	4 4.3%	6 6.5%	5 5.4%	11 12.0%	13 14.1%	13 14.1%	28 30.4%	3 3.3%	92 100.0%		
合計	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.2%	0 0.0%	4 0.6%	5 0.8%	8 1.2%	10 1.5%	4 0.6%	10 1.5%	13 2.0%	31 4.8%	53 8.1%	85 13.1%	107 16.4%	224 34.4%	96 14.7%	651 100.0%		

※当該参考資料は、平成29年度第2回石綿健康被害救済制度被認定者の介護等の実態調査に関する検討会資料3より抜粋のもの。

総得点の分布について（年齢の中央値で分割）



	0~9点	10~19点	20~29点	30~39点	40~49点	50~59点	60~69点	70~79点	80~89点	90~99点	100~109点	110~119点	120~129点	130~139点	140~149点	150~159点	160~169点	170点以上	合計
70歳以下	0	0	0	1	0	2	2	4	5	0	4	3	8	19	33	53	123	72	329
71歳以上	0	0	0	0	0	2	3	4	5	4	6	10	23	34	52	54	101	24	322
合計	0	0	0	1	0	4	5	8	10	4	10	13	31	53	85	107	224	96	651

※当該参考資料は、平成29年度第2回石綿健康被害救済制度被認定者の介護等の実態調査に関する検討会資料3より抜粋のもの。

自由記載欄について

- ・療養者：「その他、療養生活（医療面、介護面、就労面、経済面等）に関してご意見等がありましたら、ご記載ください。」
- ・ご家族：「その他、被認定者の方の療養生活（医療面、介護面、就労面、経済面等）に関してご意見等がありましたら、ご記載ください。」

アンケート調査票の自由記載欄への記載者数は、療養中の被認定者 279 人（「特になし」等の記述も含む）、お亡くなりになった被認定者の家族 20 人である。

記載内容から下記の 7 カテゴリー 573 件に仕分け（1 件の回答が複数のカテゴリーに分類されている場合は重複回答として整理）し、主な意見等の一部を記載する。

●病状や経過、診断や治療に関すること（117 件）

- ・検査の診断が早く知りたかった。一日も早く良い薬が出来る事を願っています。
- ・中皮腫を理解している病院や先生が少なすぎる。
- ・CT では少しずつ進行しているそうですが、治療の方法はありません。発症以来ずっと漢方薬を服用しています。
- ・医療費等の打切りになると経済面で大変な負担になると思われるので、治療方法が確立し 1 日も早く完治できること望む。
- ・手術が不可となり、主治医から治験を探して参加するよう勧められましたが、インターネットで探すのはとても大変でした。
- ・手足のしびれや頭痛かゆみが手術後、抗がん剤後とてもつらい。
- ・この 2 ヶ月は中皮腫（腫瘍）による痛みが発生し、痛みの強い時や就寝時は痛み止めの服用に頼っている。又、発症前からの原因不明の関節痛が（手足の指、手首、肘、肩、膝など）月に 1 週間程度あり痛みが出ている時は日常動作に支障がある。
- ・中皮腫で数回抗がん治療しましたが、高齢ということもあり、ある時点でもう治療は不可能となりました。その後の対応をどうしたら良かったのか、どこに相談したら良かったのか、と考えます。（お亡くなりになった被認定者のご家族の記述）
- ・中皮腫に対する経験値があまりにも格差があり驚いています。

●日常生活の制約や介助に関すること（57 件）

- ・在宅医療、介護（入浴補助、ストマ交換）等、相談できる機関は無いのか。今後に不安。
- ・介護面について、中皮腫と診断されてすぐはまだ動けたので要介護 1 だったのですが、急激にひどくなって来て次の介護申請が最後は色々間に合わず残念でした。中皮

腫と診断されたらもっと早く使えるようになってほしい。(お風呂イス、ベッド、車イスなど、往診、訪問看護)でも、介護の分も出ると書いてあったのですごくありがたいなと思いました。

・今後自宅での療養で家族がどこまで介護してあげられるかが不安です(緩和医療への不安)。大事な父ですので1日でも長く家族と過ごせるよう努力したいと思っています。

・歩くのが息切れで苦しいため今は自家用車の通院ですが、病気で尚且つ高齢のため運転も危険でバックなどするには肺をねじるために咳が止まりません。さらに病気が悪化した場合にはタクシーでの通院になります。

・一人でいると時々息苦しくなったり食事や食欲がなく食事を取る事も出来ない事が多あり、誰かにそばにいてもらいたく妻に仕事を辞めてもらいました。

・1人で生活をしています。この先が心配です。物忘れが少しあります。これから大変だと思います。

・急な容態悪化の為、全ての対応が後手にまわってしまったように思います。介護保険制度が分かりにくくて利用出来たのがギリギリでした。(お亡くなりになった被認定者のご家族の記述)

●就労に関すること (49件)

・中皮腫になり、治療・療養のため仕事をやめなくてはならず経済的に苦しくなりました。

・定年後、中皮腫を発症し再就職を断念した。

・化学療法～手術～放射線治療でほぼ1年は通院、入院をし、仕事などにも大変な影響を受けました。

・建築関係の就労にて体力的に心配です。

・外来治療(抗がん剤の投与)を受けながら就労しているが、外来のために休暇を取得しなければならぬため、自由に過ごす(休養や外出など)ための休暇取得ができず、日々の生活に負担を感じる。就労を続けていくための休暇制度や労働時間の調整、短縮などについての支援制度が欲しいと思う。

・健康保険適用外の抗がん剤の時はアルバイトも出来たのですが、現在は出来ません。

●療養上の経済的負担に関すること (134件)

・経済面等について救済給付金が多少でも良いが金額が多くなれば良いと思っています。

・アスベスト疾患に精通している病院が少なく、どうしても遠くの病院への通院とな

ってしまい、交通費も多額となります。通院は療養のため、必要な事なので交通費の支給をお願いします。

- ・ 2か月で20万4千円は少ないです。
- ・ 経済的には医療費の免除及び療養手当で相当楽になりました。感謝しています。
- ・ いつまで現在受けている救済制度が適用されるか心配である。
- ・ 差額ベッド代等の補助又福祉タクシーetcの補助があればものすごく助かります。
- ・ 娘ですが、私自身も仕事を辞め介護をしている毎日です。ですので、収入はなく貯金と療養費で何とか生活している状況です。介護の費用は自己負担になりますし、制度の利用のための診断書の作成にかかる料金も自己負担、通院のための交通費、駐車場代その他もろもろ自己負担分が発生しています。
- ・ 認定制度のため、経済面での心配なしに手術後も通院（京都、東京）検査（CT,PET（高額なので救済されています））をしてもらい再発のチェックをしています。
- ・ 子供達の生活私自身の生活は今までとは180° 変り経済的にすごく大変でした。
- ・ 金額面で労災と同じような救済を望みます。
- ・ 被認定者が亡くなった後の遺族の補償等があってもいいのでは？（お亡くなりになった被認定者のご家族の記述）

●療養生活における不安や心配に関すること（100件）

- ・ 将来がまるで見えない病気なので、常に不安。
- ・ この先何年生きられるか分からないなかでも、やはり希望は捨てがたくすごく強いプレッシャーを感じるどころです。
- ・ 病後再発の不安から離職せざるを得なかった。
- ・ 今後、中皮腫がまた悪化した時にどのような治療が受けられるのか心配でなりません。本人も家族も日々苦しい思いで過ごしております。
- ・ いつまで現在の状態で普通の生活が出来るのかわからず将来が見えず不安な日々です。
- ・ 父は在宅にて最期を迎えましたが毎日が苦痛と不安と恐怖の戦いでこれは家族も皆同じ思いで過ごしてきました。療養生活において心のケア（本人・家族）とも大変必要かと思えます。希望が持てない父家族に残された時間は生き地獄以外の何ものでもありませんでした。

●制度や情報に関すること（69件）

- ・ 現在の状況で利用できる（申請できる）行政の制度があるのかよくわからない（わかりづらい）です。どんな制度があるのか、知るために調べる必要もあることもよく

わかりますが、介護をしつつさらに手続となると、なかなか手つかずのままになってしまいます。わかりやすい相談場所があることを、広く知らせてほしいと強く思います。

- ・もっとこの病気（治療）に関しての情報がほしい。数ヵ月～数年しか生存出来ない現実があるのに、障害年金、厚生年金の利用が出来ない。
- ・今後ヘルパーさんやデイサービスなどの情報など何もわからないのですが、自分達で動かないといけないのか不安に思うことがあります。
- ・中皮腫に対する医療面での情報が不足しており心配である。
- ・心のこもった手厚い救済制度の拡充を切にお願いして救済にすがって生きてゆくしか道がありません。
- ・貴社の Web サイト上での療養生活に係る情報が少ないと思います。特に最新の治療（抗がん剤治療等）情報が欲しい。Net 上で検索してもその内容は、玉石混交で代替療法等 Fake に近い情報が多いです。正しい最新の情報が欲しいです。
- ・パンフレット等が医療機関に備わっていると多くの人に広報できると思います。
- ・中皮腫は障害者扱いになるのか分かりません。

●その他（47件）

- ・この制度のおかげで安心して療養生活を送ることができて、余命数ヶ月と宣告されましたが2年以上介護なしで療養しています。改めてお礼申し上げます。
- ・健康被害の認定を受けていますので、とても助かっていますが、安定している訳ではないのは現実です。環境再生保全機構の救済と関係者の方々のいつも親切丁寧なご対応に心より感謝致します。
- ・手帳を1ヶ月と17日使わせてもらい短い間しか使っていませんが助かりました。本当にありがとうございました。
- ・アンケートが多すぎます。負担になります。知らなかった事が多くあります。